

りつめい No.237 / 2009年7月号

発行所 / 立命館大学校友会 / 年4回発行

発行人 / 山中 諄

編集人 / 中村 和歳

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217

URL : <http://alumni.ritsumei.jp>

E-mail : alumni@st.ritsumei.ac.jp

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

NO.
237

2009
JULY

Brilliance
輝くひと
69

伝統産業の伝承に貢献したい
(株)伝統デザイン工房代表取締役
高橋 万太郎 さん (03 経済)

巻頭企画

地域の笑顔を生む
立命館スピリッツ
— 社会貢献を通じて成長する学生・校友たち

03 巻頭企画

地域の笑顔を生む立命館スピリッツ ——社会貢献を通じて成長する学生・校友たち

その1: 美化活動や防犯パトロールで草津市を守る

学生団体Bridge

その2: インドネシアの被災地でソフト面のサポートを展開

立命館大学国際部 国際協力学生実行委員会 (CheRits)

その3: NPO法人「Field of Dreams」で、スポーツを通じて子どもに夢の大切さを伝える

米大リーグ・インディアンズ投手の大家友和さん

その4: “校友会発”のNPO法人で「第二の人生」サポート

埼玉県校友会有志が設立したNPO法人アクティブ ライフ フォーラム

桂良太郎ボランティアセンター長に聞きました

01 輝くひと

高橋万太郎 さん

08 RITSUMEI INTERVIEW

苦境にある人に思いを馳せ、ともにありたい。
それが自治体職員の心です。

三重県健康福祉部こども局 局長

太田栄子 さん

12 都道府県校友会会長を訪ねて

佐賀県校友会会長 西村邦彦 さん

愛知県校友会会長 林 幸雄 さん

14 2009年度 校友会幹事会報告

15 オール立命館校友大会2009のご案内

18 校友会ネットワーク

19 立命館大学校友会ホームページがリニューアルされました

20 立命館明日へのことば

学習者が中心となる教育を進める立命館へ

中村 正 常務理事

22 立命館のゼミナール訪問

文学部: 春日井敏之ゼミ

情報理工学部: 八村広三郎ゼミ

24 学生のスポーツ&イベント

26 キャンパストピックス

29 輝いています、ときの人

柴田知佐 さん

30 INFORMATION

31 編集室から

表紙の人



(株) 伝統デザイン工房 代表取締役
高橋万太郎さん ('03経済)

伝統産業の伝承に貢献したい

自然と周囲が明るくなる。それが魅力ではないだろうか。新婚旅行は3ヶ月間、自動車で国内各地を巡るなど、ユニークな一面が輝く。青年実業家で「醤油ソムリエ」としても注目されている。

2007年、株式会社伝統デザイン工房を創業。全国の職人が造る醤油に特化した「職人醤油.com」というインターネットサイトを立ち上げ28社、50種類の「職人醤油」をネット販売している。ここでは、従来にはあまり見られなかった100ml瓶を各社が共通して使用。低価格で、時にはお試し感覚で、各地の造り醤油を提供する仕組みを構築した。併せて、各料理に合う一品や醤油の楽しみ方も紹介。これが広まり、テレビ出演を機に「醤油ソムリエ」と呼ばれ始めた。

起業を見据え、3年間勤めた上場企業を退職、同時に結婚した。新婚旅行を通じて地域の伝統産業への関心が高まり、起業の第一弾として「醤油」に辿り着いた。当初は醤油の知識に乏しかったが、製造会社の門を叩き、見学させてもらいながら学んだ。その数は150社に上る。「意外にも快く応じてくれる会社が多かった」といい、これも高橋さんの人徳のなせる業だろう。

取引先にも受けがよく「彼の目は一点の曇りもない。これから付き合っていきたい」と、1787年創業の岡直三郎商店(群馬県)の木本竹男常務取締役は絶賛する。在学中は今や秋の京都の風物詩である京都学生祭典の先駆けとなる「京都・学生フェスティバル」の実行委員長を務め、卒業後は関東の若手校友有志の集まり「リコネクト東京」の初代代表としてメンバーを引っ張る。大勢で何かに挑戦することを好む、根っからのリーダー気質を持つ。

群馬県出身。県内にある「万太郎山」にちなんだ自身の名に「何度も助けられた」という。だからなのか、この山とは縁深い。今年2月、拠点を神奈川から群馬に移し、再び“群馬の万太郎”としての生活が始まった。「故郷に身を置き、地域とのつながりを大切にしたい。そして伝統産業を広く伝えられるよう、貢献したいです」

醤油蔵を背にした撮影では「創業平成十九年 職人醤油」と書かれた前掛けを付けて登場。引き締まった表情でファインダーに収まった。この愛嬌とこだわりが「高橋万太郎」らしさである。

「職人醤油.com」 <http://www.s-shoyu.com/>

(写真・小幡 豊 文・山口起儀 協力・岡直三郎商店)



08



24



29

地域の笑顔を生む



立命館スピリッツ

社会貢献を通じて成長する学生・校友たち

立命館大学では、数多くのボランティア団体が活動しています。そして、校友の皆さまが在学中に築いた活動を継承し、さらに発展させています。それは社会的評価にもつながっており、各種表彰を受ける団体も数多くあります。

また、「立命館」で培った社会貢献に対する精神は卒業後も活発化しており、各地で校友たちが前向きに取り組み、活躍しています。立命館の精神が生み出す、様々な活動の状況をレポートします。



写真は学生ボランティア団体Bridgeのメンバー



美化活動や防犯パトロールで草津市を守る 学生団体Bridge（ブリッジ）

毎週土曜の朝、数人の若者が滋賀県・南草津駅周辺の美化活動を展開している。立命館大学の学生ボランティア団体「Bridge（ブリッジ）」のメンバーだ。「少しでも地域のためになることがしたい」と、草の根活動をはじめて4年。地域住民から感謝の声も聞かれるなど、その成果は確実に表れている。

団体名の「Bridge」は、地域と学生の架け橋になりたいという思いから付けられた。メンバーは24人、2005年に設立された。びわこ・くさつキャンパス（BKC）がある草津市内で、美化活動のほか、毎月1度の土曜夜には住民や警察官、市役所職員とともに娯楽施設や住宅地の防犯パトロールも行っている。時には大学や警察からの依頼を受けて啓発活動を手伝うなど、幅広い活動で地域に貢献している。

さらに、BKC周辺で暮らす女子学生123人を対象にアンケートを行い、南草津駅周辺の犯罪発生状況や危険箇所について記した「地域安全マップ」を作成。昨年から新入生や地元の小中学校、地域の人たちに配布する取り組みも行っている。

こういった活動が評価され、昨年10月に滋賀県の「『なくそう犯罪』滋賀安全なまちづくり大賞」を受賞。嘉田由紀子滋賀県知事から「モデルになる取り組みで、県全体に広がってほしい」と、さらなる

期待が込められた言葉が贈られた。

活動の成果は地域に好影響をもたらしているようだ。滋賀県発表の犯罪統計データによると、犯罪認知件数が増加傾向にあった草津市だが、一昨年は前年比278件

の減少、昨年も同比10件の減少となっている。また、メンバーは「少しずつ『捨てさせない』環境に変わってきていると思う」といい、さらに市民から「ありがとう」と声を掛けられることも増えたという。

代表の西川由佳莉さん（経済3）は「学生が捨てそうなごみが多く、地域の方々に申し訳ない気持ちでいっぱいです。学生のイメージを変えてもらえるよう、これからも活動を続けます」と語気を強める。そして「活動を続ける中で、まちがきれいになりました」と満足の表情を浮かべていた。

また、西村詩織さん（経済3）が「世界の貧困への関心が高まり、就職先を考える時、企業の社会貢献活動に目を向けるようになりました」と話すなど、活動を継続する中で、メンバーは様々なことを吸収している。

土曜朝の美化活動では、火箸とナイロン袋を手に1〜2時間、メンバーが地域を歩きながらごみ拾い。まちの人を見掛けると「おはようございます」と、率先して声を掛ける。そんな活動に対して「とても充実しています」。Bridgeは、これからも草津市に爽やかな風を送り続ける。

Bridgeの活動は
<http://rits-bridge.d2.r-cms.jp> をご覧ください。



地道な活動から「ごみを捨てさせない」環境に変わってきた



火箸とナイロン袋を手に「まちがきれいになってうれしい」とにっこり



毎月1度の防犯パトロールの様子。住民や警察官、市役所職員とともに娯楽施設や住宅地を巡回している



メンバーが製作した南草津駅周辺の「地域安全マップ」

インドネシアの被災地でソフト面のサポートを展開 立命館大学国際部 国際協力学生実行委員会（CheRits）

学生団体「立命館大学国際部 国際協力学生実行委員会（CheRits）」は、2006年に発生したインドネシア・ジャワ島中部地震の被災地の農村で、ソフト面のサポートを展開している。現地で問題点を調査し、地域で暮らす方に満足してもらえるよう、試行錯誤しながら活動している。

団体の愛称は「CheRits（チェリッツ）」。インドネシア語の「cari（探す）」「hangat（温かい）」「enak（楽しい）」の各頭文字に「Rits」を組み合わせている。活動理念は「温かく、楽しく、現地の人と一緒に問題を探す」だ。



現地の子どもの対象にした授業の風景

この地震の直後、立命館大学は同国のカラキジョ地区にある小学校や保育園の再建の資金補助を行い、そして、この事業に共鳴した学生有志が現地でボランティア活動を繰り返し広げていた。

事業は校舎が再建された07年3月で一応の完了となったが、同地区の子どもや地域社会は完全に立ち直っておらず、こうした状況の中、この学生たちが発起し「CheRits」を結成した。1〜3回生15人が所属し、活動の中で必要な各回15〜20万円の費用は、それぞれアルバイトなどで工面している。

また、津波の被災地となったスリランカも訪問していたが、現在は政情が不安定のため、活動を休止している。

海外での活動では現地の大学生とともに被災地を調査し、サ

ポートが必要なテーマを設定。出国前に勉強会を重ねながら現地で実施する企画を検討する。現地での活動は年2回で、09年3月は「防災」「保健」の2分野をテーマに活動した。このうち保健分野では、08年

夏に実施したカラキジョ地区の保健教育や病気予防の状況に関する現地調査をもとに、小学生に対する感染予防の授業を行った。こうした活動が認められ、07年に毎日新聞から「ぼうさい甲子園 奨励賞」が贈られたほか、多数のメディアでも取り上げられている。

活動を通して、メンバーは様々な学びを得ている。野原浩嗣さん（産社2）は「自分自身が現地で調査することで、報道では見えない部分を知ることができました」とし、倉本真帆さん（国関3）は「現地を見て、人とふれあう中で、地域開発の意義について考えるようになりました」と感想を述べていた。

一方で、自分たちの活動について厳しい一面も持つ。小笠原千明さん（文3）が「準備した企画が現地ニーズに合わないことなど、帰国時は反省ばかり」と話すように、受け手の満足が得られない限り、その活動は成功ではないという。

代表の古賀あすみさん（文3）は「立命館はボランティア団体が多く、社会貢献と学生の距離が近い印象があります」と、立命館のボランティア環境の充実ぶりを強調する。そして「私たちの活動について、先輩方をはじめ、多くの方に知ってもらいたい」と目を輝かせていた。



企画成功に向けて現地の学生と入念に打ち合わせ、活動後はしっかりとフィードバック



海外の被災地で支援活動を展開するCheRitsのメンバー

CheRitsの活動は
<http://remembertsunami.web.fc2.com/> をご覧ください。



活動後、現地の小学校前で記念撮影



NPO法人「Field of Dreams」で、スポーツを通じて子どもに夢の大切さを伝える 米大リーグ・インディアンズ投手の大家友和さん（'03経営入学）

5月に、2年ぶりに米国大リーグ・インディアンズでメジャー復帰を果たした大家友和さんは、子どもに「夢の大切さ」を伝えるボランティアを繰り広げている。自身が少年の頃に受けた温かい支援の恩返しとして、子どもを米国に招待し、対話などを通じて夢を後押ししている。

大家さんは2001年に子どもが夢と向き合うきっかけづくりをサポートする「大家友和ドリームツアー」をスタート。8年間で延べ91名を招待している。全国の児童養護施設の小学4年生から高校3年生までの男女が対象で、08年は7日間の日程で6名が参加した。ツアーは大家さんの私財のほか、個人や法人からの協賛金で運営している。

毎年、自身が在住している都市に招待し、試合観戦や対話会、米国で活躍する日本人による「夢教室」など、子どもたちの「夢」のサポートにつながるよう、工夫を凝らしたメニューを用意。08年に参加した、当時17歳の女子高生が「このツアーに参加していなければ、誰かに夢を話せたかどうかわかりません」と言うように、夢を持つことの素晴らしさが参加者に伝わっている。

大家さんは少年時代、決して裕福でなかった。そんな中、プロ野球観戦の招待や、高校進学時に兄から資金援助してもらったことなど、周囲からの温かいサポートにより現在の自分があるという。この頃から「プロ野球選手になって、恵まれない子どもを支援したい」という夢を描き始めた。自身がそうしてもらったように、今を生きる若者が夢と向き合う機会をサポートすることへの強い思い入れを持つ。ドリームツアーは、大家さんの理念に共感する人が集まって運営している。スタッフの数は年々増え、当初の数人から今では15人に

まで増えた。そして04年、スポーツを通じたボランティア団体として、NPO（特定非営利活動）法人「Field of Dreams（フィールド オブ ドリームズ、以下FOD）」を設立。今ではツアーのほか、社会に貢献する少年の育成をめざす野球チーム「大家ベースボールクラブ」や「立命館大学協定授業」など、活動の幅を広げている。

中でも「協定授業」は、FODの活動を教材とし、学生が地域の野球チームを招待するイベントの企画、運営にかかわるといったユニークな取り組み。06年から協定授業を担当している小島克典客員教授は「スポーツを通じた社会貢献について学び、実践力につながっている」と話す。昨年、学んでいた加藤那穂子さん（経営4）は「これまで以上に地域とかかわりたいと思うようになりました」といい、地域貢献の魅力が伝わっている。

また、立命館での学びや生活は、大家さん自身に大きく影響しているという。「志の高い学生が多く、刺激を受けています。そういった出会いを通じて、自分の社会での経験と立命館での学びを結びつける『協定授業』にたどり着いたと思います」

大家さんの活動を通じて、多くの人が「夢」を意識するようになっていく。が、それは周囲の人だけではないようだ。「ツアーは自分が原点に戻れる場所。若者と向き合うことは自分の夢の後押しになる」と大家さん。マイナーリーグで地道に努力を重ね、2年ぶりにメジャーに返り咲いた33歳の“侍”は、自らの背中で「夢の大切さ」を伝え続ける。



「ドリームツアー」に参加し、試合観戦した子どもたちと記念撮影する大家さん



地域の野球チームを招待するイベントの運営に携わった学生、スタッフと大家さん（最前列中央）



ごみ拾いなど、地域に貢献する「大家ベースボールクラブ」の少年たち

大家友和さんプロフィール

1994年、京都成章高校から日本プロ野球の横浜に投手で入団。5年間に在籍し、通算1勝。しかし、メジャーに強いあこがれを持ち、99年に渡米。この年から07年までメジャーに在籍し通算50勝、3度の2ケタ勝利を記録した。日本でわずか1勝の男が海を渡り、活躍した原点には「夢を追い続ける気持ち」があった。



“校友会発”のNPO法人で「第二の人生」サポート 埼玉県校友会有志が設立したNPO法人アクティブ ライフ フォーラム

埼玉県校友会有志が発起人となって2007年、NPO法人「アクティブ ライフ フォーラム」を設立した。全国各大学の校友会でもあまり前例のない“校友会発”のNPOは、特技を活かせる場を得た定年退職者や、新たな生き方を見つけた人の生きがいにもつながっている。それとともに、活動の新機軸として、埼玉県校友会を活性化させようという狙いもある。

このNPOは、定年退職した人がこれまでに培ったノウハウを活かし、社会に貢献する事業を展開していこうというもので、文化的な学びや、主体的に行動する人材の発掘、さらに仲間づくりのネットワーク構築や、市民参加型の生涯学習活動を担うことなどを目的に設立された。メンバーは常田幸正理事長・埼玉県校友会会長（'61文）をはじめとした同校友会の有志15人と、校友会以外の4人の計19人。中には本場の「環境教育」の分野に精通しているスウェーデン在住者もいる。

現在はメンバーの専門性を活かした「そば打ち体験研修会」や「地理・歴史研究会」、写真や絵画など芸術にふれる「アート・



地理・歴史研究会に参加したメンバー

フォーラム」などを展開。今後は各種教育や学生支援、国際貢献などに焦点を当てた企画も検討している。10月18日（日）には、陰山英男立命館小学校副校長を招いた講演会を予定しており、300

人の市民の参加を見込んでいる。

「他の校友会にも広がるようなモデル事業にしていきたい」と常田理事長。この活動は、参加者数や財務面など、校友会が抱える課題を払拭するための独自の活性化路線としての側面も持つ。NPO活動の中で多くの企画を取り揃え、その企画への校友の参加を促しながら、校友会活動への参加者増にもつながりたいという。

また、埼玉県校友会メンバーが中心となってNPO活動に取り組む中で、リーダーになれる人材を育て、校友会の活性につなげたいといった思いもある。

活動3年目。今年を「飛躍の年」と位置づけ、『埼玉立命』のメンバーが中心となって、できることから活動していきたい」と意気込みをみせる。昨年に開かれた「そば打ち体験研修会」では、この会を通じて校友の豊岡雅範氏（'69営）が「そば打ち」に関心を持ち、現在、そば職人として働いていることなど、少しずつ成果が出ている。校友会としてユニークな「埼玉立命」の社会貢献活動に今後の注目が集まる。



「そば打ち体験研修会」の様子



真剣な表情で「そば打ち」に取り組む参加者

桂良太郎 ボランティアセンター長に聞きました

イキイキと社会で活躍する校友を輩出したい

戦争だけでなく、偏見や差別のない福祉社会の構築をめざす立命館では、ボランティアなどの「サービスマーケティング」（社会貢献活動に関わりながら様々な市民活動を学ぶこと）を通じて学生が成長しています。「立命館憲章」の教学理念である「平和と民主主義」を具現化する場の一つがボランティアであり、地球市民の一人として、人の命、心、体を大事にしようという考え方を養ってもらいたいです。

立命館の学生の多くは、それぞれが自己を追求し、社会貢献の機会を探し求めている印象があります。そういった学生が交流する場として大きいのが、学内にある「ボラカフェ」（ボランティアに関する交流の場）の存在です。ここは「サービスマーケティング」に関する様々な情報が交換されるとともに、一人ひとりが

関心のある活動に出会う場です。これは、国内の各大学の中でも先進的な取り組みで、立命館の特色だと思います。

また、ボランティアは、学生の励みにもなっています。「挫折しそうな時、ボランティア活動を通じて元気をもらった」となどという学生の感想を聞くことも多く、自己の向上のためにも、ボランティアの重要性は高いのではないのでしょうか。

学生時代にボランティアに関わった学生の大半は卒業後も活動に参加している、という報告をよく耳にします。こういった具合に、社会でイキイキと活躍する校友をこれからも輩出していきたいです。



桂ボランティアセンター長

苦境にある人に思いを馳せ、ともにありたい。 それが自治体職員の心です。

太田 栄子さん（'75産社）

三重県健康福祉部子ども局 局長

社会の矛盾に向き合おうとして

1970年、菊川（旧姓）栄子さんは、三重県立津高等学校の3年生だった。大阪で行われた万国博覧会の華やかさに胸を躍らせながらも、公害問題や学生運動を報じるメディアから目をそらさず、社会が抱えるもう1つの面にも思いを及ぼせていた。そんな栄子さんが立命館大学への進学時に学びの対象として選んだのは、やはり「社会」だった。

太田 受験のとき、親は、「女の子を下宿させるなんて、とんでもない!」と言い、祖父母にいたっては、「4年制の大学に行くなど、とんでもない!!」と最後まで反対していました。まだそういう時代だったんですね。家族の心配をよそに、私は家を出て、産業社会学部に入りました。

当時、「社会学」という言葉に憧れていたんです。あの頃は経済成長が著しくて、華やかで、頑張れば明るい明日が迎えられそうなおおらかな雰囲気がありました。その一方で、さまざまな社会問題が露呈してきていました。私は「どうして世の中には恵まれた人とそうでない人がいるのだろう。どうしたら諸々の問題の折り合いをつけられるのだろう。その方法を学びたい」と思ったのです。でも、社会学の何たるかが18歳の娘に分かっているはずもなく（笑）、素朴な思いでしたけれども。

私がいた時代の産業社会学部は、社会について一通り何でも勉強できるカリキュラムになっていました。社会福祉論などが好きでしたが、それを究めたわけでもなく、卒論は、「地域開発論」をテーマに書きました。地方自治体の仕事への関心の芽のよう

なものが、すでに少しはあったのかもしれません。かつて、地方は国の立てた方針に従って動いていました。でも私は、地方発のものの考え方も絶対にあるはずで、必要なのだと思っていました。「とにかく帰ってきなさい」と繰り返す親の強い希望と、私のささやかな問題意識とがあいまって、卒業後は三重県の職員になりました。

自治体職員としての原点

最初の配属先、県教育委員会の事務局で、太田さんは教育予算の配分にかかわる事務などを担当した。養護学校の義務教育化（1979年）に向けた準備の過程で、障がい者がどんな境遇におかれてきたかを知った。その後に勤務した北勢福祉事務所と北勢児童相談所での仕事が、自治体職員としての太田さんを大きく育てることになった。

太田 福祉事務所で、私は幸いなことに、ケースワーカーの仕事をさせてもらえたのです。「女性にケースワーカーをさせるのか?」と言われる時代だったんですよ。福祉職の人の中には女性も1~2人いましたが、行政職としては、おそらく私は三重県で初の女性ケースワーカーだったと思います。

従来、生活保護の仕事が中心だった福祉事務所ですが、国際障がい者年（1981年）を機に、障がい者の生活の質の向上にも取り組もうという機運が高まったんです。私は教育委員会時代に机上で出会った障がいのある方々と、今度は実際に向き合うことになりました。比較的重い知的障がいのある方々の多くは、



教育と縁遠いまま大人になり、お家の中だけでひっそり生活することを余儀なくされていました。他人と会うことを怖がる彼らに、何とかして、人と交流する喜びや、たとえわずかでも働く喜びを味わってもらいたい。そう思って、せっせと各戸訪問をして「交流会をしませんか」と呼びかけて回りました。各所で親の会を立ち上げ、そして小規模作業所の設立にこぎつけて…。今では立派な作業所に育っています。ご本人たちの笑顔と、それを見て喜ばれた親御さんたちの笑顔。これが、私の自治体職員としての原点だと今でも思っています。

児童相談所でも、ケースワーカーをしました。不登校の問題が押し寄せてきた時期で、大変だったのですが、当事者の方々が抱えている課題の社会的な背景をも理解したうえで寄り添うことの大切さを学びました。私たちがお母さんに寄り添って、親子関係にひびを入れないように配慮していけば、お母さんは子どもに寄り添えます。すると子ども自身も徐々に元気を取り戻し、自己決定できる状況になっていきます。所内で何度も議論を重ねながら、子どもが立ち上げられるように努めました。

相談に通ってきていたお母さんから、5年も6年も経ってから、「娘が就職できました」とお電話を頂戴したりすることもありました。

嬉しかったですね。あれで良かったのだ、忘れずにいて下さったんだ、って。

こども政策は、 地域社会の総合政策

続く、職員研修センターおよび、地方分権・行政改革推進室勤務の時代には、それまでとはうって変わって県政全体を幅広く見渡すことができるようになった。県全体の意思決定の仕方を知り、大きな意味での行政と県民との係わり方について考えた。そして再び健康福祉部に戻り、福祉や子育て分野の要職を経て、太田さんは2008年度に新設された「こども局」の初代局長となった。

「こども局」という名称からは、ひらがな表記が醸し出す優しさもあってか、幼い子どもの健康と福祉を司る部署をイメージしがちであるが、太田さんが目指すこども政策のキーワードは、「社会連携」である。対象年齢も、乳児から、大人として独り立ちできるまでの青少年までと広い。社会全体の力で、三重県の将来を担う次世代と子育て世帯を支えようというわけだ。

太田 子どもは、家庭で暮らし、学校にも行き、地域の人々とも触れ合って育っていくわけですね。ですから、必要なのは総合政策です。

子どもにかかわる課題は、種類も程度もいろいろです。児童虐待や、いじめ、不登校などは、難しい問題ですね。仕事と育児の両立に関する課題や、漠然とした育児不安といったことは、どなたでも子どもをもてば多かれ少なかれ向き合うことになる課題です。このあたりのことまでは、従来の福祉政策においても対策が講じられていて、一定の成果を挙げています。けれども、より一層の効果を発揮するためには、地域そのものに福祉のマインドやスキルをもっていただくことが必要だと思うんです。絆を深めるとか、相互扶助といった部分ですね。

三重県政はいま、「文化力」をテーマに政策を見直そうとしています。ここで言う「文化力」とは、地域の力、そこに暮らす人々のさまざまな力や創造力が一体となったもののことです。

こども政策も、この「文化力」に立脚して戦略的に展開していき、「みえ次世代応援ネットワーク」というものを作りました。かねてより子育て支援に取り組んでおられたNPOの皆さんや、企業の皆さんに加入していただいています。企業は、家庭のお父さん・お母さんを雇用していますから、その家族全員の生活を視野に入れておかないと、社員に十分に力を発揮してもらえませんよね。企業の方々に、もっと子どもや子育て家庭に接し、理解していただくということで、このネットワークと三重県が共同で、「子育て応援！ わくわくフェスタ」というイベントを開催しています。社会人も、学生も、みなさん手弁当で参加して下さって、運動会や交流会をしたり、企業が出してくださるブースで楽しんだり、賑わいますよ。3回目の今年は四日市ドームで行いましたが、1月31日(土)と2月1日(日)の2日間で、27,000人も集まりました。

このネットワークのおかげで、たくさんの仲間ができましたので、今年度は子ども自身の活動を応援しようと「みえのこども応援プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは、企業の寄附という社会貢献と、地域のボランティアな活動によって、社会全体で子どもを育てようという気運を高めようという試みです。

人間は、他の人とのふれあいで得られる心のぬくもりを日々積み重ねながら成長していくと思っています。ケースワーカー



時代には、この考えに立って、個としての“あなた”に寄り添って支援していたのですが、同じ考えを県のこども政策にもぜひ活かしたいのです。

社会全体に、出産も子育てもウェルカムだという雰囲気が醸成されてはじめて、出生率も上がり、子どもも輝くでしょう。共感が連帯につながり、共生社会の創出につながっていくと信じています。

コミュニケーション力と イマジネーションの力を活かして

確かな経験と、女性ならではの感性が、太田さんが推進する政策には活かしている。しかし太田さんは女性であることを意識したことはないという。それよりも、自治体職員として、1人の人間としてどうあるべきかを常に考えてきたそう。

太田 女であることがいやだとかハンディだと思ったことはありません。私には3人の子どもがいますが、出産・育児は何の

障害にもなりませんでした。幸いなことに「意欲があるならやらせてやろう」と考えてくださるどなたかが、私の周りにはいつもいらっしゃいました。感謝しています。

仕事をする上でも、人間としてもぜひ必要だと思うのは、コミュニケーションの力ですね。自分の思いだけを相手に伝えようとしても、コミュニケーションにはなりません。でもこう言う私も、若い頃には得てして自分の気持ちが先行しましてね。私が突っ走っているときに、課長が所長と私との板挟みになって困っていたなんて、想像だにしませんでした(笑)。そのうちに、相手を理解して心を通じ合わせようと努力すること、それがコミュニケーションの基本だと分かってきました。その過程で共感が生まれたら、「一緒にやりましょう」「助けてください」と言える間柄になる。このコミュニケーションの力は、必ず自分の助けになります。仮に難渋しても、相手が変わってくれることを求めずに、自分のほうが柔らかく変われば、おのずと相手の態度も変化していきますよ。家庭でも、職場でも、同じだと思います。

自治体職員に絶対必要なのは、イマジネーションの力ですね。想像することができなければ、県民の方々に寄り添うなど、無理なわけで…。学生時代、4大公害の裁判が次々と結審していきました。その報道を見ていて、遠く離れた人たちの痛みを我が身のここのように感じる力を大切にしたいと思いました。現代の豊かさは、誰かの犠牲の上に成り立っています。人の苦境を何とかしようと考えずして、自治体職員の仕事はありません。共感して、ともにありたいと思う気持ちがなかったら、自治体職員になってはいけないんじゃないかしら。

太田さんは、校友会活動もお好きである。三重県職員の校友会で組織する「立萐会」(*)の会長を務め、三重県校友会(中勢会)にも時々顔を出すとのことだ。

太田 このところ忙しくなっちゃって、ご無沙汰気味なので、申し訳ないのですが……。三重県の校友会には、若い方々も、女性ももっと来ていただいて、そして職場ごとに固まるのはやめて、そういう機会にこそコミュニケーションの力を鍛え、新たな出会いを楽しみたいものですね。立萐会のほうは、私が会長だということは、もう長老だということね。いやだなあ(笑)。

Eiko Ota



1952 年 三重県に生まれる

1971 年 立命館大学産業社会学部入学

1975 年 同 卒業
三重県庁 入庁
教育委員会事務局に配属される

1980 年 北勢福祉事務所 ケースワーカー

1985 年 県立四日市南高等学校 事務職員

1990 年 北勢児童相談所 ケースワーカー

この後、職員研修センター、地方分権・行政改革推進室、健康福祉部健康対策課課長補佐、同部企画官を経て

2002 年 健康福祉部企画室長

2004 年 同部 福祉・子育て分野総括室長

2007 年 同部 副部長兼経営企画分野総括室長

2008 年 同部 こども局長



佐賀県

佐賀県校友会会長
にしむら くにひろ
西村 邦彦さん（'63法）
2006年11月就任

オブザーバー
佐賀県校友会事務局長
伊香賀俊介さん（'74産社）

立命館大学との関わりについて教えてください。

西村●家から離れて暮らしてみたいという強い
思いを持つ中で、東京よりも京都に魅力を感じ
ました。当時、九州で受験できる京都の大学
は立命館だけだったのではないのでしょうか。ま
た、他大学と比べて学費が安かったことも大き
かったと思います。学生時代は広小路学舎で
学び、一人暮らしや自炊など、新鮮で楽しいこ
とばかりでした。一方で、学生運動が行われて
いた時代だったことも印象に残っています。

当時は太秦で時代劇のエキストラのアルバ
イトを経験しました。その衣装で「葵祭」の行
列に参加したこともあり、とてもいい思い出です。
また、アルバイト代を貯めて購入した自転車で、



西村会長



第2回総会の様子

各地の寺を散策するのが好きで、近場や、時
には奈良まで遠出するなど、古都の香りを楽し
んでいました。

とても楽しかった学生時代ですが、心残りが
一つあります。それは、当時の末川博総長のご
自宅を訪問できなかったことです。私の下宿先
は末川先生宅の近くという恰好の場所でした。
何度も訪ねようと家の前まで行きましたが、あと
一步を踏み出す勇気がなく、玄関をノックできま
せんでした。もし、訪問していたら、末川先生
は拒むことなく受け入れてくださったことでしょう。
そう思うと、今でも悔やんでいます。

佐賀県校友会の設立時から、長年関わって来
られた校友会活動の思い出はいかがですか。

西村●立命館へ進学する時、父が私を心配し、
同郷の立命館大生を探してくれました。そして
偶然、中島欣一前会長に出会いました。思え
ば、この出会いが運命の始まりだったのではし
ょうか（笑）。卒業後、私は佐賀県庁に就職しまし
たが、勤務先が近かった中島前会長に誘われ、
私の“校友会人生”がスタートしました。

佐賀県校友会の設立にも携わりました。忘れ
もしない1970年の第1回総会では、名簿や資
料の作成、校友への参加の呼びかけなど、奔
走しましたよ。また、第2回総会で当時の細野
武男総長がご出席されたことは今でも憶えてい
ます。

総会は毎年秋に開催していますが、近年は
全国の各大学の卒業生が校歌や寮歌を歌う
「佐賀県青春寮歌祭」の実施日に合わせてい
ます。この「寮歌祭」がとても盛り上がります。
立命館は、これまでの全16回すべてに参加し
ている数少ない参加校の一つで、毎回、空手
道着のリーダーが出演します。今では「道着＝
立命」となっており、参加校の中では目立って



佐賀県青春寮歌祭の様子

いると思いますよ。ここで歌った余韻を持って
行って、総会を楽しんでいます。

佐賀県校友会の魅力と、抱負をお願いします。

伊香賀●「何気なく寄ったら楽しかった」という
のが校友会に対する第一印象です。知り合い
も増え、多くの新しい発見がありました。若手を
はじめ、参加者の増加に向けて、今は耐える時
期かもしれません。しかし、今やるべきことをやっ
て、この先の参加者を増やしていきたいです。

また、2010年は校友大会が初めて九州で開
催されます。立命館をアピールするいい機会で
す。わかりやすい方法で周知させ、多くの人が
参加する大会を目指します。



伊香賀事務局長

西村●創立時から活躍された中島前会長の
存在は大きいですが、気負うことなく、佐賀県
校友の交流の場を大切にしていきたいもので
す。職業が異なっても、楽しく過ごせるのが校
友会の魅力だと思います。

佐賀県校友会では様々な業種の校友が集ま
り、世代を超えた交流が繰り広げられています。
「立命館で学び、佐賀で暮らす」といった縁を
大切にしましょう。皆さまのご参加をお待ちして
います。

佐賀県校友会	
設 立：1970年	
会員数：385名（2009年6月現在）	
総会時期：例年11月頃	
総会参加者数：40名程度	



林会長

どのような学生時代を過ごされたのでしょうか。

林●京都の古い町並みに魅力を感じ、立命館
に進学しました。当時は学生運動が盛んで、休
講も多かったですね。そういった状況下、私が
熱中していたのはRBC(立命館大学放送局)で
の活動です。ここで、今の人間関係の原点が
築かれたと思います。また努力することの必要
性を学び、自身の手で物事を進めたことに対す
る自信も得られました。

あの頃は何事にも必死で、時には番組づくり
について、徹夜で議論することもありましたよ。こ
ういった思い出は今でも鮮明に残っています。
当時の仲間とは今でも年1度、会っています。1
泊2日で旅行し、学生時代の思い出話を肴（さ
かな）に飲み明かしています。これが毎年の楽
しみですね。

学生時代の思い出の地は御陵の下宿です
（笑）。古都に憧れて京都で暮らしたにもかか
わらず、思い返せば観光地にはほとんど訪れて
いないのです。夜中に10人ぐらいの仲間とビー
ルを飲みながら下宿まで2、3時間かけて歩き、
3畳の部屋でコタツに20本の足が入って雑魚寝、
なんてこともありましたよ。今では想像もつかな
い光景ですが…。懐かしいですね。

校友会活動の魅力について教えてください。

林●私が校友会活動に積極的に関わり始めた



2008年の新歓イベントのひとつ

のは約10年前です。それまでは、たまに総会に
顔を出す程度でした。仕事でお付き合いのあつ
た土田三次郎前会長からお誘いを受けたのが
きっかけです。活動を通じて多くの人と出会い、
先輩方から学んでいく中で、主体的に関わりた
いと思うようになりました。

愛知県校友会の特徴は、活動に積極的な若
手校友が多いところではないでしょうか。20代を
中心とした約20名の若手が運営に参画し、総
会や新校友歓迎の企画などに携わっています。
やはり、若手が動かないと会は盛り上がりません。

こうした会の底上げには、06年にスタートした
新歓イベントが功を奏しているようです。参加者
も年々増加し、会を通じて先輩と新校友が交流
を深めています。このイベントの最後に校友会
活動に参画する人を募るのですが、毎年数人
の若手有志が手を上げてくれます。この若手こ
そが、未来の愛知県校友会を担ってくれる心強
い存在です。大切に育てていきたいです。

本部副会長就任や東海ブロックでの校友大会
開催など、林会長に注目が集まります。
抱負をお願いします。

林●現在は愛知県校友会会長のほか、校友
会本部副会長、学園の評議員の計3役に就か
せていただいています。加えて、今年は校友大
会が東海ブロックで開催されることで、校友会
に関わる時間が大幅に増えました。校友会は今
の私の「生活の一部」になっています。その中
で、大切にしたいのは「熱心に取り組む気持ち」
です。校友会活動に対し、誠実に打ち込んで
いた三木庸行元会長（現名誉会長）、土田前
会長の姿勢を受け継ぎ、愛知県のさらなる発展
につながらよう、力の限り貢献したいです。

また、6月から本部副会長に就任しましたが、
校友の皆様に役立つことを第一に考えるという

愛知県

愛知県校友会会長
はやし ゆきお
林 幸雄さん（'73産社）
2004年11月就任



愛知県校友会の役員の皆さま

気持ちは、これまでとは変わりません。今後は本
部と愛知県をつなぎ、融合した活動を繰り広げ
られるよう、働きかけていきたいです。

さらに9月27日には、史上初となる東海プロッ
クでの校友大会（26日はプレイベント）を開催し
ます。現在、愛知、三重、岐阜、静岡の4県
校友会を中心とした実行委員会で、企画や運
営について議論を重ねています。目玉企画とし
て、トヨタ自動車の張富士夫会長の講演や、か
らくり人形師の玉屋庄兵衛氏の作品展示、トヨ
タ博物館の見学ツアーなど、東海ブロックらしい
「ものづくり」に焦点を当てた内容を取り揃えま
した。歴史のまち・京都とは違った特色のある
校友大会をめざし、成功に向けて実行委員メン
バーの士気も高まっています。皆さまのご参加を
心よりお待ちしております。

愛知県校友会	
設 立：1948年	
会員数：3000名（2009年6月現在）	
*総会に参加し、当日会費とともに年会費 をお支払い頂いた方々（総会欠席でも、 別途振込みで年会費納入の方々を含む）	
総会時期：例年10～11月頃	
総会参加者数：400名程度	

2009年度 校友会幹事会報告

6月6日(土)に校友会三役会議、常任幹事会、幹事会を、いずれも朱雀キャンパスで開催した。校友会三役(会長、副会長、監事)、常任幹事、幹事の約200名が全国各地から参集した。

幹事会は5階大講義室で開かれた。冒頭、川口清史総長の「校友会の皆さまのご提言を反映させていただきながら、21世紀の新しい分野に挑戦する人材を育成していきたい」という挨拶をいただいた後、山中諄校友会長が議長を務め、議事を進めた。



報告事項

三役会議、常任幹事会にて審議、承認された以下の事項につき、報告が行われた。

①学校法人立命館評議員の推挙(補充)

校友会推薦による評議員であった尾崎敬則、戸田雄一郎の両氏の学園監事就任に伴い、新たに齋藤茂、山下晃正の両氏を評議員に推薦した。

②新卒幹事について

2009年3月卒業の9氏(各学部からの推薦による)を、山中会長が指名・選任したことが報告された(別表の通り)。

③校友会役員人事、専門委員会について

尾崎敬則前副会長と久岡康成前監事が学校法人立命館監事就任のため辞任されたことに伴い、新たに林幸雄前監事が副会長、鈴木治一、高橋英幸の両氏が監事にそれぞれ就任された。さらに、新たな委員体制となった5つの専門委員会について報告された。

④2008年度決算・2009年度予算について

浅賀博副会長より報告があった(別表の通り)。続いて、佐竹力総監事より、適正な執行がなされている旨、監査報告が行われた。

⑤オール立命館校友大会2009実施案について

西村義行副会長より、企画内容や準備状況について報告された。9月27日(26日はプレイベント)に、名古屋国際会議場を主会場に開催する。校友会史上初となる東海地方での開催で、愛知、三重、岐阜、静岡の4県校友会による特色ある企画などが展開される。

審議事項

①推薦校友の承認

1名の方を承認した。

[2008年度決算]

●収入の部

(単位:円)

科 目	決算額
会費収入	231,159,000
資産運用収入	3,097,867
校友大会事業収入	8,968,000
その他収入	5,910,931
前年度繰越金	22,605,213
合 計	271,741,011

*1 特別会計繰入金支出としての執行内訳

終身会費積立金会計繰入金支出	50,000,000 (¥948,144,884)
会館建設基金会計繰入金支出	2,000,000 (¥74,140,106)
名簿発行準備金会計繰入金支出	0 (¥22,362,034)
記念大会準備金会計繰入金支出	2,000,000 (¥9,616,213)
計	54,000,000 (¥1,054,263,237)

●支出の部

(単位:円)

科 目	決算額
人件費支出	22,374,654
運営費支出	19,050,178
組織強化事業支出	46,401,636
校友大会事業支出	32,476,271
奨学金事業支出	20,000,000
広報事業支出	46,372,397
*1 特別会計繰入金支出	54,000,000
予備費	0
次年度繰越金	31,065,875
合 計	271,741,011

[2009年度予算]

●収入の部

(単位:円)

科 目	予算額
会費収入	250,950,000
資産運用収入	880,000
校友大会事業収入	6,500,000
広報事業収入	25,500,000
その他収入	200,000
*2 繰入金収入	1,054,263,237
前年度繰越金	31,065,875
合 計	1,369,359,112

*2 繰入金収入内訳

終身会費積立金会計繰入金収入	¥948,144,884
会館建設基金会計繰入金収入	¥74,140,106
名簿発行準備金会計繰入金収入	¥22,362,034
記念大会準備金会計繰入金収入	¥9,616,213
計	¥1,054,263,237

●支出の部

(単位:円)

科 目	予算額
組織強化事業支出	62,000,000
校友大会事業支出	40,600,000
奨学金事業支出	20,350,000
広報事業支出	72,850,000
人件費支出	27,250,000
運営費支出	23,160,000
*3 校友会基金積立金支出	1,074,263,237
予備費	15,000,000
次年度繰越金	33,885,875
合 計	1,369,359,112

*3 校友会基金積立金支出内訳

繰入金収入分+2009年度積立金2,000万円

校友会本部役員

会 長	山中 諄	S40経済	南海電気鉄道(株)代表取締役会長兼CEO
副会長	浅賀 博	S33理工	パシフィックコンサルタンツ(株)調査役
	渡邊 申孝	S33経済	東洋精機(株)取締役相談役
	西村 義行	S35経済	農業自営
	清家 邦敏	S36経済	大成印刷(株)代表取締役社長
	布垣 豊	S36法	京都中央信用金庫理事長
	西村 隆	S38法	びわ湖放送(株)代表取締役社長
	住野 公一	S45経済	(株)オートックスセブン相談役
	村上 健治	S45産社	大和ハウス工業(株)代表取締役社長
	林 幸雄	S48産社	(株)電広エイジェンシー代表取締役社長
	肥塚 浩	S59経済・S62院経済	(学)立命館総長特別補佐
監 事	高橋 英幸	S44経済	(学)立命館一貫教育部担当部長
	佐竹 力総	S45法	(株)美濃吉代表取締役社長
	鈴木 治一	H3法	弁護士

常任幹事

茶谷 利夫	S33経済	柴田 晃	S50経営・H14院政策
中村 和蔵	S36文	折戸 優兒	S51産社
中野 友廣	S37文	水田 雅博	S51経済
中村 義孝	S37法・S42院法	加藤美佐子	S52文
佐伯 希彦	S38理工	小幡 豊	S53経済
岸野 洋	S39法	佐野 哲夫	S57経済
村岡 治	S39理工	村上 高久	S57法・H15院政策
坂口 博翁	S40文・S46院文	山岡 祐子	S58経済
辻 淳夫	S41経済	山添 祥統	S61経済
本津 綏子	S42経営	小原 隆治	S62法
渡辺 三彦	S43理工	加藤ニッポル	H5国際
北尾 陽扶	S46経営	恒吉 孝司	H7経済
山下 勇	S47理工	野口 智久	H10経営
山本 啓幸	S48理工		

専門委員

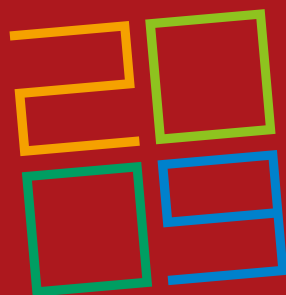
総務委員会	委員長	中村 義孝	S37法・S42院法	広報委員会	委員長	宮西 徳明	S56法
	委員	有田 嵩	S33法		委員	山岡 祐子	S58経済
		荒木 徹	S34理工			安達 正哉	S59法
		佐伯 希彦	S38理工			日下部和弘	S60法
		飛鳥井雅和	S39法			西村 仁	S60理工・H18院経営
		山下 勇	S47理工			森 力	H7経済
		木村 保和	S50経済			乾 光孝	H9文
		三上 宏平	S52法			加藤 良直	H11経済
		木村 武志	S55理工			新實 和子	H18産社
		佐野 哲夫	S57経済			田中 吉政	H19政策
財務委員会	委員長	渡辺 三彦	S43理工	一丁委員会	委員長	加藤美佐子	S52文
	委員	栗山 崇	S31法		委員	仲 治實	S44経営
		茶谷 利夫	S33経済			城本 聡実	S57文
		本津 綏子	S42経営			柴田 直人	H1経営
		重松 英樹	S49経営			横川 好治	H8経済
		松田 全功	S49理工			山口 洋典	H10理工・H12院理工
		嵯峨 法夫	S50法			片山 優香	H17文
		恒吉 孝司	H7経済			柴田 晃	S50経営・H14院政策
		大前 美郎	H11法			廣川 智彦	H3産社
		中村 和蔵	S36文			安居 利晋	H6産社
広報委員会	委員長	中村 和蔵	S36文	事業委員会	委員長	柴田 晃	S50経営・H14院政策
	委員	田中保太郎	S42経済		委員	廣川 智彦	H3産社
		小幡 豊	S53経済			安岡 毅	H10理工
		高橋 英子	S53産社			上條 雅和	H12経済

2009年度 新卒幹事

法学部	清水 碧里	産業社会学部	島袋 貴史	文学部	原田 育子
経済学部	中務 良太	国際関係学部	村瀬 智里	理工学部	鳴滝 翔吾
経営学部	長瀬建太郎	政策科学部	野添 智紗	情報理工学部	古屋 未来

RITSUMEI '09 in 名古屋

オール立命館 校友大会



9月27日(日) 11:00~18:00

場所 名古屋国際会議場

主催／立命館大学校友会、
立命館大学愛知県校友会・三重県校友会・岐阜県校友会・静岡県校友会
共催／立命館大学、立命館アジア太平洋大学、立命館大学父母教育後援会
後援／愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社他

プレイベント開催 9月26日(土) 12:00~18:00
名古屋栄 久屋大通公園 もちの木広場

「オール立命館校友大会2009」は9月27日(日)午前11時から、名古屋国際会議場で開催されます。校友大会史上初めてとなる東海地方(愛知県)での開催で、愛知県、三重県、岐阜県、静岡県の東海4県校友会が中心となって、地域の特色を活かした多彩なイベントを繰り広げます。また、前日の26日(土)には、名古屋・栄にある「久屋大通公園もちの木広場」で、立命館の学生が活躍するプレイベントも行われます。例年とは一味違った、魅力ある校友大会になることは間違いありません!多くの皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



オール立命館 校友大会 2009 9月27日(日) 【プログラム】

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
第一会場 4号館1階 (白鳥ホール)	立命館大学校友会総会 & レセプションパーティー 総会／16:00～16:30 レセプションパーティー／16:30～18:00 ※ばんばひろふみ オンステージあり ※参加有料：事前申込制 第一会場(着席)8,000円 第二会場(立食)4,000円 ●愛知県、三重県、岐阜県、静岡県の校友の皆様は 各県校友会事務局までお問い合わせください。 ばんば ひろふみ氏 (73・経済) 校友対象企画								
第二会場 3号館B1階 (Cascade)									
センチュリーホール	在学生による オープニング パフォーマンス／ 11:00～11:10 どなたでも参加OK 張 富士夫氏 古田 敦也氏 (88・経営) 武田 美保氏 (99・産社) ※参加無料：事前申込制 プレミアムトークショー 開催記念講演／11:10～12:10 テーマ：日本の将来に向けたひとづくり(仮) 講師：張 富士夫氏(トヨタ自動車株式会社代表取締役会長) トークセッション／12:30～14:00 テーマ：求められる人物像(仮) コーディネーター：本郷 真紹氏(学校法人立命館副総長) パネラー：張 富士夫氏(トヨタ自動車株式会社代表取締役会長) 川口 清史氏(学校法人立命館総長) 古田 敦也氏(プロ野球解説者 元ヤクルト監督) 武田 美保氏(元シンクロナイズドスイミング日本代表)								
	4号館3階 どなたでも参加OK 学生実行委員会企画 11:00～16:00 (予定) ○茶道部 ○囲碁研究部 ○将棋研究会 ○かるた会 愛知県校友会総会／14:15～14:45 静岡県校友会総会／15:15～15:45 東海ブロック企画 11:00～16:00 ○からくり 九代 玉屋庄兵衛氏 ○トヨタ博物館車両展示 学生実行委員会企画 11:00～16:00 (予定) ○EV-Racing(ソーラーカー) ○内燃機関研究会(フォーミュラカー) どなたでも参加OK								
騎馬像前広場 モノづくりをテーマとした展示	イベントホール前 駐車場 校友対象企画 東海ブロック企画 マンモグラフィー検診／14:00～16:00 ※参加無料：先着20名事前申込制								
イベントホール	どなたでも参加OK オープンキャンパス in 名古屋 13:00～17:00(受付12:30) ○入試相談 ○模擬講座 ○立命館大学各学部PRコーナー								

※諸事情により出演者、および内容が変更になる可能性があります。ご了承ください。

お問合せ・お申込先 ▶ 立命館大学校友会事務局 TEL.075-813-8216 FAX.075-813-8217

校友大会ホームページ <http://alumni.ritsumei.jp/>

立命館大学校友会 検索

オール立命館校友大会2009プレイベント

9月26日(土) 12:00～18:00 名古屋栄 久屋大通公園 もちの木広場

～未来に向けて～ 環境への意義・重要性、産業観光の発展、歴史観光の良さをアピールしていきます。

“名古屋開府400年プレ記念事業イベント”

ステージアトラクション

- 楽器演奏系(吹奏楽部、交響楽団、ジャズクラブ、ギター演奏、邦楽等)
- 合唱系(男声合唱、混声合唱、アカペラ等)
- パフォーマンス(各種ダンス等)
- 環境PRトークショー
- ピンクリボン運動PRトークショー 他

出展ブース

- 立命館および京都観光紹介
・古美術研究会 ・バーチャル京都
- 立命館環境への取り組み(パネル展示)
・EV-Racing(ソーラーカー、太陽光発電)
・Live with E(学園祭でのごみの分別等の活動)
・Reco.lab ・Ecompass
・国際青年環境NGOSAGE(様々な切り口から環境を考える)
- 立命館PR ・グッズ販売

- 名古屋イベントPR
・名古屋開府400年関連
・本丸御殿再建
・名古屋まつり
・産業観光
・環境(COP10)関連
- ピンクリボン運動PR

ユンソナ来場!



ユンソナさんのマネージャーは
(株)ホリプロの五間岩ゆかさん
(01政策)です。

主催／立命館大学校友会、立命館大学愛知県校友会・三重県校友会・岐阜県校友会・静岡県校友会、(財)名古屋観光コンベンションビューロー
共催／立命館大学、立命館アジア太平洋大学 後援／名古屋市、名古屋開府400年記念事業実行委員会、中日新聞社

■名古屋開府400年祭パートナーシップ事業

※諸事情により出演者、および内容が変更になる可能性があります。ご了承ください。

9月26日(土)
校友限定有料オプション企画

A、Bコースともお1人様5,000円

名古屋産業観光バスツアーのご案内

名古屋にまつわる2つの産業観光コースをご用意しました。
開催地の名古屋の魅力をご堪能ください。

※本ツアーの企画・実施(＝申し込み・問い合わせ先)は、名鉄観光サービス(株)です。

※このページでは企画の概要のみを紹介いたします。お問い合わせ、お申し込みは、下記の連絡先まで直接ご連絡ください。ご宿泊先のご相談も受け付けています。

A コース 世界のトヨタを極める



- トヨタ自動車発祥の地に残された「産業技術記念館」を訪問し、繊維機械と自動車の技術を紹介します。
- ガソリン自動車誕生から約100年間の歴史を紹介する「トヨタ博物館」を訪問します。

○最少催行人員：30名 ○添乗員：同行いたします ○食事：付いておりません

日次	スケジュール	(★入場観光)
9/26(土)	名古屋栄テレビ塔駐車場＝★トヨタ・テクノミュージアム「産業技術記念館」＝13:00発 ＝★トヨタ博物館＝名古屋栄テレビ塔駐車場18:00頃	

B コース 伝統技術を極める



- 「ノリタケの森」を訪問し、その技術と経験の粋を集めた陶磁器を紹介します。
- 八丁味噌の歴史などを紹介する岡崎市「八丁味噌の郷」を訪れます。
- 有松絞りの歴史や資料を展示する「有松・鳴海絞会館」を訪問します。

○最少催行人員：30名 ○添乗員：同行いたします ○食事：付いておりません

日次	スケジュール	(★入場観光)
9/26(土)	名古屋栄テレビ塔駐車場＝★ノリタケの森＝13:00発 ＝(名古屋高速/伊勢湾岸/東名道)＝★八丁味噌の郷＝ ＝★有松・鳴海絞会館＝名古屋栄テレビ塔駐車場18:00頃	

〈お問い合わせ先／旅行企画実施〉

名鉄観光サービス株式会社 名古屋伏見支店

☎(052)211-2315

FAX(052)211-2420

e-mail: fushimi@mwat.co.jp

〒450-0008 名古屋市中区栄2-9-26(ボア名古屋ビル)

■営業時間／9:00～18:00

■休業日／土日祝日

■総合旅行業務取扱主任者／岩田寧伸

■担当／安田

旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不明な点があれば、ご遠慮なく上記の旅行業務取扱管理者にお尋ねください。

旅行業公正取引
協議会 会員

(社)日本旅行業協会正会員
ポイント保証 会員

観光庁長官登録旅行業第55号

※お問い合わせの際は「立命館大学校友会オプション企画の件」とお伝えください。

校友会ネットワーク Alumni Association Network

2009年3月～6月上旬に行われた各団体の行事です(判明分)

詳しくは校友会ホームページをご覧ください
http://alumni.ritsumei.jp

都道府県校友会ほか

- ◆5/9 奈良県校友会
60周年記念総会
(270名・ホテル日航奈良)
- ◆5/15 兵庫県校友会J-Club
第1回会合
(42名・(株) SOLA Kobe Office)
- ◆5/22 立門会
(福岡県校友会新人の集い)
(25名・博多「表邸」)



奈良県校友会60周年記念総会



兵庫県校友会J-Club第1回会合

地域校友会

- ◆3/7 愛知県校友会東三河支部総会
(70名・ウェステージ豊橋)
- ◆3/21 立命館マレーシア校友会総会
(90名・ルネッサンス・クアラルンプール・ホテル)
- ◆3/28 北海道校友会室蘭同窓会総会
(13名・室蘭第一ホテル)
- ◆4/26 兵庫県西宮支部総会
(28名・酒蔵通り煉瓦ホール)



愛知県校友会東三河支部総会



立命館マレーシア校友会総会



兵庫県西宮支部総会

職域校友会

- ◆5/20 奈良市役所立命会総会
(50名・猿沢荘)
- ◆6/3 立命京滋観光の会総会
(55名・グランドプリンスホテル京都)
- ◆6/3 高槻市役所槻立会総会
(45名・アンシェルデ・マリアージュ)



立命京滋観光の会総会



高槻市役所槻立会総会

学部・学科校友会

- ◆3/20 文学部英米文学同窓会総会
(40名・石長松菊園)
- ◆5/29 建設会広島県支部総会
(50名・リーガロイヤルホテル広島)



英米文学同窓会総会

サークルOB・OG会

- ◆3/21 会計学研究会OB会総会
(50名・京都タワーホテル)
- ◆5/16 スポーツフェロー懇親会
(460名・京都全日空ホテル)



スポーツフェロー懇親会

その他の会

- ◆4/9～12 '68年卒ワンダーフォーゲルOB会
(16名・北京・万里の長城)
- ◆5/15 S33年度卒化学科同期会
(20名・天龍寺)



'68卒ワンダーフォーゲルOB会

専門委員合同報告会

5つの専門委員会の委員が集結!

2月21日(土)に朱雀キャンパスで「立命館大学校友会専門委員会委員長会議・専門委員合同報告会」を開催。5つの専門委員会(総務、財務、広報、事業、IT)の委員長と各委員が集結した初めての会議で、計33名が出席した。「全国都道府県事務局長・幹事長会議」(1月)の報告まとめのほか、専門委員会の役割などについて意見交換した。

2008年度立命館大学校友会奨学金(校友会長賞)授与式

学生10名に「校友会長賞」を贈呈!

3月18日(水)に2008年度の「立命館大学校友会奨学金(校友会長賞)授与式」が行われ、課外・自主活動において優れ、校友および教職員の立命館アイデンティティを高めることに寄与した学生10名に「校友会長賞」、10団体に「校友会長特別賞」がそれぞれ贈られた。



立命館大学校友会ホームページがリニューアルされました!

2009年春に立命館大学校友会ホームページ(以下HP)が新しくなりました。ページデザインが変わり、そしてコンテンツが充実するなど、これまで以上に親しみの持てるページへと生まれ変わりました。

HPアドレスは **http://alumni.ritsumei.jp/**

立命館大学校友会

検索

ココが大きく
変わりました!

その1
デザインが
一新!

比較的迷わず閲覧できるよう、ボタンの配置など、ユーザーの視点に立った構造で、さらに見やすいデザインに仕上げました。また、上部の大きな画像スペースでは、様々な立命館大学校友会の“表情”をお見せする予定です。ご期待ください!

その3
新しい
コンテンツ!

「立命館憲章」「校友会長挨拶」「校友会Q&A」など、これまでのHPになかったコンテンツが加わりました。また、校友会本部仕様のHPを使用する各校友会のHPもリニューアルしています。本部HPの「都道府県・グループ校友会一覧」からアクセスしてください。

その2
お知らせ記事を
分類して掲載!

記事のコーナーでは校友会本部からの情報、各都道府県・グループ校友会が発信する情報、学園情報に分類して掲載しています。

▶▶▶▶ 新たに本部仕様のHPを製作、または製作中の校友会一覧(2009年6月現在)

福島県校友会	栃木県校友会	神奈川県校友会
富山県校友会	石川県校友会	岐阜県校友会
大阪校友会	和歌山県校友会	鳥取県西部校友会
広島県東部校友会	大分県校友会	上海校友会

「学習者中心の教育」をめざして ——未来を生みだす「学びのコミュニティ」の創造

中 村 正 常務理事（教学担当）

立命館大学では現在、「学習者中心の教育」をめざして教学改革を進めています。

「学習者中心の教育」とはどのようなものか、教学推進を担当する中村 正常務理事（教学担当）にうかがいました。

現在、主に10代から20代の若者を
教育する立場におられる中村先生。
ご自身はどんな若者でしたか。

アクティブな学生時代でしたよ。高校生の頃は山岳部に所属し、山登りに熱中しました。ふるさとの三重県の花々、鈴鹿山脈、大峰山脈はもちろん、アルプスにも登ったものです。「なぜ山に登るのか」といった答えのでない問いと向き合ったり、山岳小説を読んで生死について考えたりしていました。山登りというのは、実はとても思索的な行為です。大学時代はサークル活動や社会活動をしていました。今思えば、学校の勉強だけでなくこうした課外活動を通じて、自ら考え、心身を鍛え、成長したのだと思います。

今の学生や教育課題は、
かつてと変わったのでしょうか。

学生も、それを取り巻く現実も、一昔前に比べて様変わりしました。来年3月にはいよいよ平成生まれの子ども達が、大学卒業を迎えます。私たちの時代と隔たりがあるのも当然です。現代の若者の課題の一つは、「いかに自立するか」ではないでしょうか。刻々と変化する現代社会では、専門知識や技術はすぐに役に立たなくなってしまう。必要なのは、自己決定力や問題解決力、異なるものと共存する力など、社会や仕事が変わっても通用する基礎力、これを「立命館学力」として定式化したいと思っています。大学とは、未来に直面するであろう思考と体験のシミュレーションを通して、こうした力を養う場所だと私は考えています。

大学に課せられる責任は、大きいですね。

その通りです。現代は、環境破壊や経済不況など、地球規模で考え、解決していかなければならない問題が山積し



ています。そんななかで大学も、社会の関心や課題に応えることが、これまで以上に求められるようになってきました。研究成果を社会に還元することに加え、もう一つの大学の大きな役割が、人材育成です。本学も、将来世界でリーダーとして活躍できる人を育て、社会に送り出すことを期待されています。

「学習者中心の教育」も
こうした現代の課題から生まれてきたのですね。
具体的にはどのような取り組みを行っていますか。

知識を一方的に伝達する従来の教育にとどまらず、学習者である「学生自身の視点」に立って、学生が学びに納得、共感し、さらには関心を持って自ら学ぼうとする意欲を育むこと。そして学生が主体的、自律的に学び、成長するための「学びのコミュニティ」を大学に形成すること。それが、私たちのめざす「学習者中心の教育」です。

そのために学生生活を3段階に分けて、課題を設定しました。入学した初年次に学習基盤や意欲を醸成する、4年間を通して体系的に学べる教育システムを提供する、そして卒業時に目標の力を保証することです。教育システムの構築に

おいては、まず各学部でどんな人材を育成したいかという目標を掲げ、それを達成するために必要なカリキュラムをできるかぎりシンプルに体系化しようとしています。これを「幹」とし、それに必要な科目を花や葉にした「カリキュラムツリー」を作ります。花や葉である一つひとつの科目の位置づけをはっきりさせることで、各科目が有機的に関連し、充実した学びを得られることがひと目でわかる「カリキュラムマップ」となります。また4年間で1～8セメスターに分け、それぞれの目標と達成度がわかるようにします。学生は、カリキュラムツリーに沿って自分の目標やそのために必要な学びを把握し、セメスターごとにどの程度まで到達したかを確認することで、より効果的に学べると同時に、学習意欲も高まります。

「生き抜く力」を身につけるために
特に注力している教育はありますか。

専門以外の幅広い分野の学び、多様な経験、自分とは異なる人々との交流といった教養教育が大切だと考えています。こうした学習を通して学生は、自分の立ち位置を異なる視点から捉えて相対化し、多様な社会の中で共存する力を養います。そのために本学では、多様な学びの選択肢を提供しています。留学や課外活動のほか、「サービス・ラーニング」といわれるような、社会や地域でボランティア活動やインターンシップなど体験型の学習にも力を入れています。特に京都は、世界に開かれた国際都市です。立命館で学びながら、世界を学べるチャンスもあります。また学生参画型の授業も増えるでしょうね。たとえば私の授業では、グループワークなどワークショップ型の学習も取り入れています。

教学改革は、まだスタートしたばかりです。これから検証し、改善しながらより良いものを作っていくつもりです。私としては、学生にもっと「武者修行」してほしいと思っています。大学が用意する制度だけでなく、自分自身を鍛える学びを自ら見つけ、積極的に挑戦してほしいですね。

校友のみなさまへのメッセージをお願いします。

立命館や学生のことにいつも心を砕いてくださる校友のみなさまには、感謝の言葉とともに「ご安心ください」と伝えたいですね。立命館大学の学生は、高い潜在能力を持っています。私も立命館大学出身ですが、今の学生の授業への出席状況や学習意欲は、私の学生時代よりもよほど高いくらいです。こうした学生の可能性を伸ばすため、「学習者中心の

教育」を進めているのです。新しい学部や校舎ができるなど、立命館大学の目を見張る変化に驚かされている校友の方々も多いことでしょう。目に見える変化だけでなく、今後は目に見えない教育の改革にもご注目いただければと思っています。

お忙しい毎日を送っておられる先生ですが、
息抜きをされることはありますか。

私は映画や演劇が好きで、休日は時間を見つけて映画館や舞台に足を運んでいます。メジャーではないミニシアター系の作品をよく観ますね。演劇は若い頃、寺山修二の作品に惹かれて以来、今でも維新派や唐十郎といった芝居が好きです。できれば舞台に立ってみたいという野望を持っています。

映画を教育や研究に活用することもあります。私の専門分野は、社会病理学です。現在、「シネマで学ぶ『人間と社会の現在』」という講座を企画しています。今は、「“裁き”のそのあとで―加害といかに向き合うか―」をテーマとした公開講座を朱雀キャンパスで開講しています。そこでは死刑囚や犯罪加害者を扱った映画を観賞し、レクチャーしたり、意見交換しています。楽しみながら、知的好奇心を満たせる講座です。校友のみなさまにもご参加いただければ幸いですね。

聞き手・編集 立命館広報課



立命館のゼミナール訪問

衣笠 春日井ゼミ（文学部）

📖 春日井ゼミ：文学部教育人間学専攻 春日井敏之教授 📖 研究テーマ：臨床教育学の視点から学校教育の課題に迫る

春日井ゼミでは教育に関する各課題の解決について、臨床教育の観点から迫った研究が行われ、生の教育現場を意識したゼミが繰り広げられています。春日井教授のお話をうかがい、ゼミ取材しました。

Interview

教育現場とリンクした実践的研究を

私は、臨床教育学の視点から「思春期の人格発達と支援関係」「学校教育相談と開発的カウンセリング」「教師の自己形成・自己変容プロセス」などを研究しています。これから教員や対人援助職などを目指す学生が、子どもの発達やいじめ・不登校問題など、学校現場と協働しながら「教育課題の実践的研究」に取り組んでいます。23年間の公立中学校教員の勤務を経て、大学教員になって9年目ですが、そうした経験を活かし、次世代育成や現職教育に関わりたと思っています。

ゼミでは3回生時に毎年、全国の小中高校を訪問する研修を行うほか、各自が研究テーマを設定し、卒業論文の約半分を目安にした「3回生論文」を書きます。そして4回生でさらに研究や実践を深め、卒論に取り取りかかります。中には、途中でテーマを変更する学生もいますが、そこには葛藤しながら成長する姿が見られます。

私の実践的研究の特徴は、「援助者への援助」のあり方を研究テーマの一つにしているところにあります。教員の抱える悩みや諸課題に対して、学校の内外に開かれた支援ネットワークを強化し、チームで対応する体制が必要です。若手教員がバーンアウトしないためにも、「助けて」と弱さを出せてつながっていける環境を広げていく必

要があります。

そのために、小中高校教員との事例検討会や「不登校の親の会」などにも参画し続けていますが、抱える課題は様々であり、こういった現場と協働しながら、実践的研究を進めています。

学校現場における教員の一回性の体験には、普遍的な真理が含まれています。この真理を読み解き共有していくことが、実践的研究の柱でもあります。若い頃の理想は「生涯一教員」でしたが、現在は、人間であり、教員である幹の太い次世代育成を役割の一つと考えています。ゼミ生には、お互いが励みになり、意味のある関係を築きながら、現状の教育問題の本質や背景について考え、「子どもについての何故を自らに問う」姿勢を身につけてくれることを期待しています。

Profile

春日井 敏之（かすがい としゆき）

文学部教授 教育人間学専攻

1977年立命館大学法学部卒業後、京都府内の公立中学校教諭として23年間勤務。この間、1998年に大阪教育大学教育学研究科修士課程を修了。2001年から立命館大学文学部へ。専攻は臨床教育学、教育相談論。趣味はスポーツ全般で、日本バスケットボール協会の公認審判も勤めた。人生のキーワードは「つながりの実感」。大学での教育・研究のほか、滋賀、京都、大阪の4箇所、毎月小中高校の教員等と事例検討会などを行う。



つながりと待つ間を大切に

中学教員経験のある春日井教授ならではの「生きた教育現場」と絡めたゼミが展開されている。4回生の研究内容は「学力問題」「少年犯罪」「自己肯定感」「障害のある子どものきょうだいに対する支援」「教育現場における『聴く』ことの意味」など多岐に亘る。学内外の体験や活動を基に研究に打ち込むゼミ生も多く、それぞれが問題意識を持って課題と向き合っている。

進路は研究テーマ上、教員を目指す学生が半数を占め、ほかに民間企業、公務員、大学院などに進む。春日井教授は大学の内外問わず「実践のフィールド」を持つよう、ゼミ生にアドバイスしており、それは就職や進学など、人生の節目で活きているという。

このゼミでは「つながり」と「待つ間」を大切に、より深まった学生の意見を求める。そして、研修や日ごろの活動で信頼関係を深めながら、ゼミ生自身が「違いを受け止め合える安心感」をつくり上げている。教授は「本質的な議論が深まり新たな気づきが生まれることも多い」といい、その成果も安心できる環境があってこそその到達点なのかもしれない。



Student's Voice

問題意識持って教育現場をみる

文学部教育人間学専攻 4回生
白波瀬李花 さん



私たちのゼミは「教育」をベースとして、人間と教育をめぐる様々な問題を多面的に捉え、考えることができる場です。この自由な雰囲気を尊重しつつ、これからもそれぞれが問題意識を持って教育現場をみつめ、学んだことを社会に活かしていきたいです。

Schedule <予定>

● 3回生
2009.4 文献研究
2009.8 グループ毎のテーマ研究
2009.11~ 3回生論文テーマ設定、作成
2009.11 学校訪問研修（2泊3日）
2010.2 3回生論文完成
● 4回生
2009.4~ 3回生論文発表
2009.10 卒論個別指導
2009.11 卒論中間発表会宿（1泊2日）
2010.1 卒論発表

BKC 八村ゼミ（情報理工学部）

📖 八村ゼミ：情報理工学部メディア情報学科 八村広三郎教授 📖 研究室名：画像システム研究室

八村ゼミでは人文科学と情報科学を融合した「人文情報学」をテーマに画像処理やCG、バーチャルリアリティなどの可能性を追求しています。ゼミ取材し、八村教授にお話をうかがいました。

Interview

情報処理から感性の“謎”に迫る

私の研究室では絵画などの芸術作品や、歌舞伎などの「無形文化財」の“動き”をデジタル化して保存する「デジタルアーカイブ」の研究を中心に取り組んでいます。この「情報科学」と「文化情報」を融合したユニークな取り組みが特徴です。デジタル化したデータを単に保存するだけでなく、それを解析し、広く世界に発信するために日々、努力しています。

無形文化財のデジタルアーカイブでは「モーションキャプチャ」という、現実の人物の動きをデジタル的に記録する技術を用います。この研究では、キャプチャ専用のボディースーツを着用したパフォーマンスが体の数十ヶ所にマーカーを付けて動き、3次元の動作を計測します。伝統芸能に携わる人は芸のデータ保存への意識が高く、向上心や継承に向けた思いが伝わってきます。理系人として、こうした研究に携わると、演者らの期待に応える成果とともに、芸の一流と二流の動きの違いを「数值的」に解析したい、といった衝動に駆られます。また、既にその研究に着手している院生もいます。

立命館大学では「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ（DH）拠点」というプログラムが、グローバルCOE（文科省の研究拠点形成等補助金事業）に採択されており、私はこの研究プロジェクトの

サプリーターと、この中の「デジタルアーカイブ技術研究班」のリーダーを務めています。人文系と情報系が融合したこのプログラムは、これまでの人文科学の研究を変えるチャンスだと思っています。日本文化DHの発展のために尽力していきたいと考えています。

私は「画像情報処理」と「感性情報処理」が専門分野で、今は「画像情報と人間の『感性』とのかかわり」について興味があります。例えば「子どもの塗り絵」と「芸術家の絵」の違いはどこにあるのでしょうか。いずれも二次元の紙の上に絵の具を塗っただけのものですが、一方は芸術として評価されます。この絵の持っている「感性的要素」は、どこから発生するのでしょうか。また、舞踊で例えても、普段の私たちの単純な身体動作と、舞踊の身体動作のそれぞれが持つ感性的要素は、どこから発生するのでしょうか。こういった具合に、画像と人間の感性との関係について、これから研究していきたいです。

Profile

八村 広三郎（はちむら こうさぶろう）

情報理工学部教授 メディア情報学科

1971年京都大学工学部卒業。京都大学工学博士。大学院を修了後、国立民族博物館第五研究部助手、京都大学工学部助教授などを経て1994年から立命館大学理工学部へ。2004年から情報理工学部。趣味はクラシック音楽の鑑賞、日曜大工。情報処理学会、電子情報通信学会、画像電子学会、芸術科学会の各会員。



画像処理がもたらす希望が詰まった研究室

八村研究室は活気で溢れている。プレゼンテーションでは20数人の学生、教員が教室に集まる中、学生が発表。それに関する質問やアドバイスなどが繰り広げられ、時には厳しい指摘もある。「“真似事”でも学術研究をやっているわけだから、聴く人、読む人のことを考えてほしい」と、資料作成に関するルールの徹底などを促す。学生はこうした“荒波”にもまれ、成長している。

この研究室では絵画などの有形文化財や、舞踊の動きなど無形文化財のデジタルアーカイブについて研究している。有形文化財、例えば「浮世絵」の絵の落款（書画の署名）を自動判定するシステムについて研究している学生がいるが、これは昔の絵師の特定につながるほか、各絵師の年齢による字体の変化に対応できれば、描かれた年代が不明な絵の年代特定につながるかもしれない。

また、無形文化財の「アーカイブ」では、仮想の演者と実際の人間がダンスで共演、といったことも現実化しようとしている。

こういった大きな希望が詰まった研究室で学生は日々、コンピュータと向き合っている。



Student's Voice

文化とIT融合の可能性に魅力

情報理工学部メディア情報学科 4回生
上野 恵 さん



文化や歴史に興味があり、ITを通してそれらの可能性を追求する研究に魅力を感じました。この研究室は八村教授のほかにも、指導してくださる先生がおられるので、有意義に研究に打ち込めます。就職内定先では、研究室で身につけた技術や知識を活かし、社会に役立ちたいです。



SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863

陸上競技部

関西学生陸上競技対校選手権大会 男子陸上競技部が

12年ぶり2度目の優勝!

総合得点 169点

女子陸上競技部は準優勝!

総合得点 126点

(4月30日～5月17日
西京極総合運動公園陸上競技場、長居第二陸上競技場)

4月30日、5月8、9、16、17日の5日間にわたって開催された第86回関西学生陸上競技対校選手権大会にて、男子陸上競技部が12年ぶり2度目の総合優勝を果たした。

また、女子陸上競技部も同大会にて総合得点126点を記録し、準優勝した。

主な成績

- ▶男子ハーフマラソン
優勝 西野智也(経済4)
- ▶女子10,000m
優勝 小島一恵(経営4)
2位 沼田未知(理工2)
- ▶男子100m
優勝 小谷優介(経済2)
- ▶男子400m
優勝 小野利明(経済3)
- ▶男子400mリレー
優勝(大会タイ記録：39秒86)
堀江新太郎(経済1)
小谷優介(経済2)
坂本兼玲(経済3)
土手啓史(経済4)



- ▶男子110m障害
優勝 玉井秀樹(経営4)
- ▶男子走り高跳び
優勝 佐々木竜一(文4)
- ▶男子1500m
優勝 今崎俊樹(経営1)

●女子陸上競技部

金栗記念選抜陸上中長距離熊本大会

(4月4日 熊本県民総合運動公園陸上競技場)

大学の部

- ▶女子5000m
優勝 メリー・ワンガリ・ワンジョイ
(立命館アジア太平洋大学APS 5)
- 3位 小島一恵(経営4)

高校の部

- ▶女子3000m
優勝 伊藤 紋(立命館宇治高校3年)

重量学部

第6回全日本学生 ウエイトリフティング選抜大会

(4月19日 さいたま記念総合体育館)

- ▶女子63kg級
優勝 木下ちひろ(産社2)

自転車競技部

全日本学生選手権クリテリウム大会

(4月26日 びわこ・くさつキャンパス(BKC)外周道路)

- ▶優勝 石井 愛(経済2)

全国の大学から約150名の選手が参加し、女子の部は外周道路7周回で行われた。

大会では、併設のRitsクリテリウム大会も盛



大に行われ、強風と時折の小雨にもかかわらず、3歳児からプロ選手まで総勢600名の選手が、BKC構内を駆け抜けた。また、当日は、オープンキャンパスも同時に行われ、昼休み時には高校生や父母の方々もレースを観戦していた。

アメリカンフットボール部

第59回長浜ひょうたんボウル

(4月29日 滋賀県立長浜ドーム)

- ▶日本大学フェニックスに快勝!

○42-16 日本大学

柔道部

京都学生・学生女子大会

(5月3日 京都産業大学第2体育館)

女子の部

- ▶団体優勝 リーグ戦3戦全勝
(4年連続7度目)

フランスジュニア国際大会女子

(5月9日～10日 フランス・リヨン)

- ▶52kg級
優勝 堀井江梨子(産社1)

水泳部

第85回日本選手権水泳競技大会 シンクロナイズドスイミング競技

(5/2～5/5 東京辰巳国際水泳場)

- ▶ソロ
2位入賞 乾友紀子(経営1)
- ▶チーム
日本優勝
- ▶デュエット
優勝 小林千紗(経済4)
乾友紀子(経営1)
- 8位入賞 上南侑生(経済2)
松本千尋(経営3)

競技はソロ、チーム、デュエットの順で行われ、ソロには上南さん、乾さんが出場。乾さんがテクニカルルーティン(技術点)、アーティスティックインプレッション(芸術点)ともに安定した演技で2位入賞を勝ち取った。チームで

は、小林さん、乾さんがメンバーとして参加する日本チームが、2位に大差をつけて優勝。

デュエットは乾・小林組、上南・松本組が出場し、乾・小林組が優勝。上南・松本組も8位入賞と力強い演技で会場の注目を集めた。

7月26日からローマで開催される世界選手権へは小林さん、乾さん両選手がチーム・デュエットでの代表参加が見込まれ、更なる活躍が期待される。

アーチェリー部

第38回全日本フィールドアーチェリー選手権大会

(5月3日～5日 群馬国際フィールドアーチェリー)

- ▶リカーブ部門女子個人
優勝 林 享美(政策3)

硬式野球部

関西学生野球六大学春季リーグ戦

(4月4日～6月3日 わかさスタジアム京都 他)

- ▶3位
ベストナイン
柳田一喜(法4)
上内辰哉(文4)



CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

2009年度新歓祭典を開催!!

(4月25日 びわこ・くさつキャンパス)

今年は「新歓祭典～君と創る祭～」というテーマで新入生・在学生・地域住民の方々等

を対象に、参加された全ての人が楽しめるものを目指した。

サークルや有志団体による企画・展示には、色とりどりの衣装に身をつつんだ新入生や、親子連れの地域住民の方々が行列を作った。

クライマックスには、セントラルアーク内にあるステージで立命館大学吹奏楽部応援団によるパフォーマンスが行われ、素晴らしい演奏に参加者の心がひとつになった。



考古学研究会

文献に記されていない、 平安時代前期頃と推定される未知の 寺院の存在を証明する遺物を発見!!

考古学研究会が、松尾山(京都市西京区)山中での調査中に文献に記されていない、平安時代前期頃と推定される未知の寺院の存在を証明する遺物を発見した。遺物は、平安時代のものと思われる瓦や須恵器で、遺物に加え人工的に造成されたひな壇上の平坦地なども見つかった。

近年、考古学研究会は、松尾山古墳群の分布・測量調査に取り組んでおり、日頃の地道な努力が中世期の遺物の発見という大きな成果につながった。今後の益々の活躍が期待される。



バトントワリング部

第34回全日本バトントワリング選手権大会

(3月27日～29日 大阪市中央体育館)

- ▶チームA 団体優勝
- ▶チームB 3位入賞

本大会の結果を受けて、8月6日から9日までオーストラリア・シドニーにて開催される「第5回WBTFインターナショナルカップ」に、日本代表として本学バトントワリング部チームA・Bが共に出場することが決定した。

将棋研究会

第38回全国支部将棋名人戦東西決戦

(5月6日 東京「将棋会館」特別対局室)

- ▶支部名人
優勝(2連覇) 古屋皓介(文4)

第41回草津宿場まつり

立命館大学課外活動団体が多数参加!!

(4月26日 JR草津駅周辺)

このイベントは毎年、地域の方によって開催されるもので、旧草津宿の歴史や伝統を身近に楽しむことができ、草津市の春の風物詩としても知られている。

様々なイベントが開催される中、本学からも多くの課外活動団体が参加した。

美術研究部は無料で来場者の似顔絵を描くイベントを行った。多くの来場者が列をつくって並び、1時間待ちになる程の人気だった。美術研究部の森川摂さん(文3)は「毎年多くのお客さんが並んでくれています。大学と地域の距離が近づくと感じられるので頑張っています。」と笑顔で語った。



京都新聞社 編集局長 上野孝司氏が講義

5月21日(木)、衣笠キャンパスで、産業社会学部「ジャーナリズム論」(担当: 柳澤伸司教授)の講義が行われました。今回は京都新聞社 編集局長 上野孝司氏を講師に迎え、「新聞作りの現場から見た現代社会」をテーマに講義を行いました。上野孝司氏は立命館大学法学部の卒業生です(1976年卒)。

講義では、当日の京都新聞・朝刊を教材として使いながら、現代社会の実像に対してアプローチ。日本の政治・経済、国際情勢、格差社会、医療現場の不安、犯罪の変化、人間関係の希薄などのキーワードから、現在の状況を詳細に分析しました。そのうえで、閉塞状況が極まる日本は昭和10年代の様相と似ていると指摘。かつての日本はこの状況を打破するために戦争を起こしたと現在の状況について危機感を示しました。

また、「現在のメディアは、新聞だけではなく、テレビ、ラジオ、書籍・雑誌、ネット、モバイルなど多様化している。今後は電子新聞、動画利用などが予想される。新聞は100年に一度の危機と言われている。しかし、新聞は社会正義を目指した『論陣』を張ることができるし、『ニュースの分析・展望』、『総合的な知識を得る』ことができる。新聞は朝刊分で新書1冊分の情報量がある。4年間で新聞を読むことを習慣づけてほしい。新聞は100年後の読者に対して、歴史を刻む崇高な仕事である。若い学生の皆さんはぜひとも新聞記者を目指して欲しい」と後輩にエールを送りました。

受講した学生は約90名。受講後は「現役の第一線で働いている方のお話が聞けて有意義であった」、「新聞づくりの大変さが実感できた」、「インターネット社会において、最もジャーナリズムを発揮しているのが新聞だということがわかった」、「幅広い知識を得るためには新聞を読まなければならないことを学んだ」など、多数の感想が寄せられました。

銭湯を英語で紹介 政策科学部生が冊子「The Sento: Japanese Public Bathhouses in Kyoto」を作成

日本固有の文化である銭湯に外国人にも親しんでもらおうと、英語で京都市内の銭湯を紹介した冊子「The Sento : Japanese Public Bathhouses in Kyoto」を政策科学部の学生が作成しました。外国人には分かりにくい入浴の仕方やマナーも丁寧に解説しています。

政策科学部では、2007年度から専門教育と連携した新しい英語教育の一貫として、地域貢献型英語教育プログラム“Decoding Kyoto Project”([decode]は「暗号を解読・翻訳する」の意味)を開始しました。

“Decoding Kyoto Project”は、学生の自主的活動、フィールドワーク、グループワークに基づいて研究を行なう2回生のゼミナールのプロジェクトの一つです。これらに英語の実践的学習の要素を加え、外国人住民や観光客にとって京都をもっと暮らしやすく楽しめる町にするために、重要な情報の英語翻訳を行なっています。

2008年度は京都市に多く点在し、一つの文化となっている「銭湯」をテーマに、学生が独自の調査を重ねました。

冊子はB6判72ページ。金閣寺、清水寺やJR京都駅などの観光スポットや駅に近い23店舗を紹介しています。営業時間や定休日、タオルの貸し出しの有無などの一覧表、薬湯やタイル絵などの特徴も記載しています。

10人の学生が1年がかりで作成しました。冊子は紹介した銭湯や、外国人向けの観光案内所などに置いてあります。内容は



立命館大学ホームページからも閲覧できます。問い合わせは、立命館大学広報課 TEL 075-813-8300。

産官学で映画人材育成 松竹京都撮影所 新施設が完成

3月10日、松竹京都撮影所(京都市右京区)のリニューアルに伴い、同撮影所内に映像学部生が使用する実習施設が完成しました。実習施設はスタジオ2棟、編集施設、教室、メディア収蔵庫などからなり、2009年度から主に3回生が使用しています。

施設は歴史と伝統を誇る時代劇撮影所に隣接しており、学生たちはプロの制作現場に実際に身を置きながら、映像制作を学んでいきます。

松竹(株)と立命館は、京都府の支援もえて、映像産業の発展を担う人材育成および映画・映像技術の研究開発、京都を中心とした文化の創造・発展への寄与を産学連携により行っていくことを目指しています。今回の松竹京都撮影所内への立命館実習施設の設置は、その施策の一つです。

当日はこの実習施設が公開され、関係者約400人が最新の設備を見学しました。

竣工式では、松竹の迫本淳一社長が「日本でも珍しい産学公の連携施設。人材育成や技術開発に対応できる」とあいさつ。長田豊臣理事長も「この実習施設ならプロのスタッフの中で学べる。制作もプロデュースもできる人材を育てたい」と意欲を示しました。



東京大学、京都大学、 慶應義塾大学、早稲田大学と 日米研究インスティテュートを開設

このたび立命館大学は東京大学、京都大学、慶應義塾大学及び早稲田大学とアメリカ・ワシントンD.C.にNPO法人「日米研究インスティテュート」を共同で設立しました。複数大学共同による法人設置は初めての取り組みです。

国際社会の構造的変化の中、日米両国は様々な課題に直面しています。こうしたグローバルな問題を解決するため、「日米研究インスティテュート」は、学術的な研究基盤に立ちながら、現実的なニーズに応える研究を発信します。また、世界の研究者との共同研究を通じ、新しい時代の要請にこたえる日米の若手研究者を育成していきます。

政策論争と政策情報の中心であるアメリカ／ワシントンD.C.で、独立した視点から、日米の大学の研究ネットワークを駆使し、日米の大学、実業界からの人材をフルに活用した研究活動を行い、従来にない成果を挙げていくことを目指します。

高齢者の運動量 電子タグで把握 島川博光・情報理工学部教授がシステム開発

島川博光・情報理工学部教授と(株)ゴビ(京都市下京区)は、電子タグを利用して高齢者の生活状況を把握するシステム実験の成果を発表しました。一日の行動や運動量の変化が数値で把握でき、今後は高齢者の介護や安全確保に生かせるよう実用化を進めていきます。

島川教授は防災システムリサーチセンター(BKC)内に、高齢者が生活すると想定した1LDKの部屋を再現し、床やふすま、生活用具や家電類などに3000枚以上の薄い電子タグ(約5センチ四方)を張り付けました。

高齢者の両腕と足に小型の読み取り機を

付け、タグと電波をやりとりすることで位置や移動経路が分かるようにしました。家電類や布団など持ち運びするものにもタグを付け、掃除や布団の上げ下ろしといった生活状況を幅広く記録できます。

実験は、介護や生活面の安全確保などに活用できるといい、将来的には、老人ホームや住宅への導入を見込んでいます。



学生がデザインした 「新フードコート」がオープン

びわこ・くさつキャンパス(BKC)に、学生がデザインやメニュー作りに参加した「新フードコート」がオープンしました。

従来の食堂の混雑が激しいことから、ユニオンスクエア2階の事務室なども「新フードコート」として改装。学生からキャンパス整備スタッフを募集し、延べ約1130人にアンケートするなどして意見を反映させました。

室内の床や天井は木目調で、テーブルや椅子(922席)をゆったりと配置。空間デザインを担当した経済学部2回生 藤沢直人さんは、「これまでの食堂の無機質な印象を一新し、温かみを感じてもらえるよう工夫を凝らした」と語ります。BKCの約550人の留



学生にも配慮し、特定の動物の肉を使わないメニューなども用意。体育会運動部員向けに、必要なカロリーや栄養素を計算したアスリート食もあります。

メニュー作りを担当した経済学部3回生 岡田紗知さんは「多くの要望を新鮮味のあ

村上正紀・立命館副総長が 紫綬褒章を受章

村上正紀・立命館副総長は「化合物半導体デバイス用のオーミック・コンタクト材料の開発」が評価され、紫綬褒章を受章しました。専門は金属薄膜



学。金属と化合物半導体との間に「コンタクト材」と呼ばれる中間層を入れると電気が流れやすくなる現象を発見しました。この成果はその後、携帯電話の小型化、軽量化などにも活用されました。

村上正紀副総長は大学院を修了後は、20年近くアメリカで研究をしていました。コンタクト材の開発に成功したのはIBMワトソン研究所の部門マネジャー時代。偶然、理論に反して金属と化合物半導体に電気が通りやすくなる現象を見つけました。「共同研究者に恵まれました。彼らとの共同受賞です」。研究に対する信条は「挑戦は前進、満足は後退」。また、「物事を考える際にはまずは孤独になり、一人で考え抜くことが重要だと思っています。共同研究では異なった意見を大きな耳を持って聞くことを心がけています」と語ります。

2007年に京都大学から立命館へ。立命館副総長とともに、立命館グローバルイノベーション研究機構(R-GIRO)の機構長代理を務めています。

通信販売ホームページを開設

立命館グッズがインターネット上で購入できるようになりました。

このところ立命館グッズに関するお問い合わせや遠方からのお買い求めが増えております。立命館グッズをより身近に、お手軽にお求めいただけるよう、ショッピングサイトを設けました。もちろん、電話・FAXでもお求めいただけます。

皆様も是非ともご利用ください。



●インターネットでのご注文

次のアドレスにアクセスください。

<http://www.ritsumeikan-shop.com/>

●FAXでのご注文

次の事項をご記載のうえ、FAXでご注文ください。

必要事項：お名前、ご住所、電話番号、FAX番号、希望お支払い方法

商品情報：希望商品名(色・サイズ)、単価、個数

FAX: 075-463-9045

●電話でのご注文

次までご連絡ください。

(株)クレオテック リベルテ

TEL: 075-463-9740

本の出版

立命館アジア太平洋大学 (APU) 誕生秘話が書籍化

このたび「立命館アジア太平洋大学誕生物語～世界協学の大学づくり～」が中央公論社より出版されました。

本書は、世界81カ国・地域から約2600人の留学生が集い、日英2カ国で授業を行っているAPUがどのような経緯で開学したのか、また、開学当時の学生たちが何を期待し、いかに奮闘したのかなどについて綴っています。

主に綴られているのはAPU創設に向けて第一歩を踏み出した1994年から開学を迎えた2000年4月頃までと開学からの2年間。1期生、2期生の奮闘を中心に描いています。

日本にとって緊急の課題である大学のグローバル化を進めるAPUの歴史を知る上でも非常に興味

深い内容となっています。

●APU誕生物語編集委員会 著

●体裁：新書判

●定価：1,208円(本体1,150円)

●発行：中央公論新社



立命館京都文化講座「京都に学ぶ」ブックレット第1期(4冊)を発行

このたび立命館大学文学部は、京都文化講座「京都に学ぶ」ブックレットを発行しました。

このブックレット第1期(4冊)は、2007年度に東京キャンパスで行なわれた「立命館京都文化講座」の講義内容を書き下ろし、テーマごとにまとめたものです。

京都を「京の色彩(いろどり)」、「京の乱」、「京の荘厳と雅(しょうごんとみやび)」及び「京の生活(くらし)」といった視点から考察・解説。「京都」について、いけばな、公家の生活、芸能、映画、文学、絵画、動乱の歴史など、さまざまな切り口で考察しております。

執筆は、華道次期家元 池坊由紀氏、冷泉家25代当主 冷泉為久氏や立命館大学文学部教授陣などです。



- 書名：立命館大学京都文化講座「京都に学ぶ」
- ①京の色彩(いろどり)、②京の乱、③京の荘厳と雅(しょうごんとみやび)、④京の生活(くらし)
- 定価：各750円(税込)
- 体裁：A5判 並製 ブックレット 112頁
- 発行：(株)白川書院

大阪

2009年度後期 京都文化講座「大阪・京の色彩」のご案内

- 全体テーマ 「大阪・京の色彩(いろどり)」
- コーディネーター 木村一信(立命館大学文学部長)、永田 靖(大阪大学文学部教授)
- プログラム 時間はいずれも、14:00～15:30

第1回	10月5日(月)	「花のこころ」	池坊由紀(華道池坊次期家元・立命館大学)
第2回	10月19日(月)	「大阪を舞台にした能一世阿弥の『難波梅』を読む」	天野文雄(能楽研究・大阪大学)
第3回	10月26日(月)	「祇園祭と北野祭」	三枝義子(日本中世史・立命館大学)
第4回	11月2日(月)	「上田秋成の大阪」	飯倉洋一(日本近世文学・大阪大学)
第5回	11月9日(月)	「京の美術・絵画」	西林孝浩(東洋美術史・立命館大学)
第6回	11月30日(月)	「文学と映画～大阪の色、京の色」	上倉康敬(美学・日本映画・大阪大学)
第7回	12月7日(月)	「文人たちの京都～花街とその周辺～」	加藤政洋(地理学・立命館大学)
第8回	12月14日(月)	「近代大阪の絵画と色彩」	橋爪節也(日本美術史・大阪大学)

- 会場 立命館アカデミア@大阪 6Aセミナールーム
- 定員 80名
- 受講料 8回13,000円(1回2,000円)
- 共催 大阪大学21世紀構想塾、立命館大学文学部、立命館大阪オフィス
- 後援 大阪府、大阪市教育委員会(申請予定)
- 問合せ先 立命館大阪オフィス 電話：06-6201-3610

東京

2009年度 立命館東京キャンパス京都文化講座のご案内

過去2年好評だった東京キャンパス「京都文化講座」を今年も開講します。テーマ型の連続講座で、9月～10月に2テーマ、後期(12月予定)に2テーマ、合計4テーマを開講する予定です。

<資料請求>東京キャンパス 03-5224-8188 http://www.ritsumeikan.jp/tokyo-campus/index_j.html

■「徒然草」と御室仁和寺の風景<土曜日>全4回11:00～12:30>コーディネーター：中本大

9月5日(土)	私たちは「徒然草」を読んでいるから「徒然草」の語に迫る一	中本大・文学部教授
9月19日(土)	『徒然草』と仁和寺―兼好と弘融の交流を軸として―	横山和弘・京都文化博物館学芸員
10月3日(土)	中世仁和寺の歴史と文化	米田真理子・大阪大学講師
10月17日(土)	「徒然草」を通して見る北の歴史の風景	中本大・文学部教授

■激動の政治空間 幕末京都に迫る<火曜日>全5回時間未定>コーディネーター：山崎有恒

第1回	幕末の京都と徳川将軍家の動向(仮)	奈良勝司・立命館大学講師
第2回	薩長同盟再考(仮)	家近良樹・大阪経済大学教授
第3回	幕末の京都と薩摩藩の動向(仮)	佐々木克・京都大学名誉教授
第4回	坂本龍馬をめぐる新視点(仮)	青山忠正・仏教大学教授
第5回	政治空間としての幕末京都	山崎有恒・立命館大学教授

*日程・時間は決定次第、ホームページなどでご案内させていただきます。

大阪

2009年度 立命館大阪オフィス講座のご案内

- 開講期間 2009年9月9日(水)～2010年3月24日(水)
- 時間 14:00～15:40
- 会場 立命館アカデミア@大阪 6Aセミナールーム
- 受講料 1回1,000円(20回以上の一括申込20,000円)
- 定員 各90名
- 問合せ先 立命館大阪オフィス 電話：06-6201-3610

開講日	講義タイトル	講師名
1 2009年9月9日	水 テレビが今大きく変わる?	川端 義明 (財)NHKサービスセンター NHKホール支配人(75年 法学部卒)
2 2009年9月16日	水 日本の所得税	浪花 健三 法学部 教授
3 2009年9月30日	水 家族介護者支援のリアリティ-男性介護者の研究から-	津止 正敏 産業社会学部 教授
スポーツ健康科学部(2010年4月開設構想・設置認可申請中) テーマ「健康の科学～健康で長生きするために」(4～7:4回シリーズ)		
4 2009年10月07日	水 運動で生活習慣病を予防しよう	浜岡 隆文 鹿屋体育大学 教授
5 2009年10月14日	水 健康づくりと運動ガイドライン	田畑 泉 独立行政法人 国立健康・栄養研究所 健康増進プログラムリーダー
6 2009年10月21日	水 筋力トレーニングで若返り	藤田 聡 経済学部 准教授
7 2009年10月28日	水 健康づくりと食生活	海老久 美子 国立スポーツ科学センター スポーツ医学部研究員
8 2009年11月4日	水 金融危機と会社財務	松村 勝弘 経営学部 教授
9 2009年11月11日	水 国際社会と日本人の権	田島 義久 弁護士(大阪弁護士会)('74年 法学部卒)
10 2009年11月18日	水 国際政治とラテンアメリカの新しい流れ	松下 列 国際関係学部 教授
薬学部・生命科学部テーマ「ライフサイエンスの最前線」(11～14:4回シリーズ)		
11 2009年11月25日	水 光を神経シグナルに変換する網膜の成り立ちと機能	小池 千恵子 薬学部 准教授
12 2009年12月2日	水 極限環境微生物の探索と利用	今中 忠行 生命科学部 教授
13 2009年12月9日	水 バイオシミュレーションとは	野間 昭典 生命科学部 教授
14 2009年12月16日	水 シアノバクテリアで解き明かす体内時計のしくみ	寺内一姫 生命科学部 准教授
15 2010年1月13日	水 京料理解体新書	高橋 拓児 「木乃燭」三代目若主人('90年 法学部卒)
16 2010年1月20日	水 健康食品の現状とその問題点	高屋 和子 経済学部 准教授
17 2010年1月27日	水 バルグループ 発展の秘密	井上 英隆 株式会社 バレ 代表取締役会長('59年 法学部卒)
健康食品の展望(18～20:3回シリーズ)		
18 2010年2月03日	水 第1回:機能性食品	グローバリゼーション研究機構 教授
19 2010年2月10日	水 第2回:食品因子を活用したがん予防	
20 2010年2月17日	水 第3回:健康食品の社会的地位付け	
21 2010年2月24日	水 新経済大国インドを知る100分間	小田 尚也 政策科学部 准教授
22 2010年3月3日	水 ニュースを映画館で観た時代	川村 健一郎 映像学部 准教授
23 2010年3月10日	水 機械のストレスを測る	若清水 幸夫 理工学部 教授
24 2010年3月17日	水 滅災を実現する情報技術	仲谷 善雄 情報理工学部 教授
25 2010年3月24日	水 教えられたこと限りなし	川本 八郎 学校法人立命館 顧問

地雷・クラスター爆弾のない世界を

一人の一步よりも百人の一步が世界を変える

●●● 柴田知佐さん（国際関係学部4年生）

「地雷・クラスター爆弾をなくそう!」というテレビCMを見たことがありますか？
そのCMの中で地雷とクラスター爆弾の廃絶を訴えているのは、
実は立命館大学の学生である、柴田知佐さん（国際関係学部4年生）です。
どのような思いで地雷やクラスター爆弾をなくそうと活動をしているのか。
今回は柴田さんが活動を始めたきっかけや、現在の活動内容などについて、お話を伺いました。



Q 地雷やクラスター爆弾について、
いつごろから興味が芽生えたのですか？
また、今までどのような活動を
してこられたのか教えてください。

私が小学生のとき、長野オリンピックが開催
されました。そのときの聖火リレーで、地雷撤
去作業中に地雷が爆発し、右手足を失ったクリ
ス・ムーンさんという方が走っているのをテレ
ビで見て、初めて地雷というものの存在を知り
ました。その後、地雷について調べていくうちに、
大きなショックをうけました。日本で不自由なく
安全に生活していた私は、地雷による被害の大
きさが信じられなかったのです。そのとき、「自
分にも何か出来ることがあるはず。何か行動を
起こしたい」と強く思いました。

絵を描くことが好きだった私は、地雷廃絶を
訴える漫画を書き、自分の通う学校で募金活動
を始めました。この活動を続ける中で、地元の
テレビ局の取材を受けました。そして、中学1
年の夏、テレビ局の方からの提案で、実際にカ
ンボジアに行き、地雷が埋設されている地域を
訪れる機会を得ました。



Q 実際に地雷のある所に行ってみて、
どのようなことを感じられましたか。

実際にカンボジアに行くと、地雷というものが
日常生活と隣接して存在していると感じました。
私が宿泊したホテルの前に、地雷の被害にあっ
たであろう人が無気力な顔をして座っていた
り、ある村では、子どもたちが地雷が埋まってい
るであろう場所の近く
で遊んでいたりしま
した。その光景はとて
もショックでした。地
雷が埋まっているとわ
かっていても自分には
何も出来ない、ということに無力感を感じ、「何
かしなければいけない」という気持ちが強まりま
した。帰国後は、音楽の授業がないカンボジア
に日本の小学校や中学校で使っているピアノカ
やリコーダーを送るという活動を始めました。



2008年3月には、クラスター爆弾の被害が
多いラオスに行きました。クラスター爆弾も地
雷と同じように罪のない人々を傷つけ、苦しめ
る恐ろしい兵器であるということを認識していま
したが、やはり現状を目の当たりにすると驚愕
するばかりでした。ラオスでは、ベトナムと国境
を接する地域において、ベトナム戦争で使用さ
れたクラスター爆弾の被害が今も続いています。
そこで私は、日本からの援助で建てられた学校
の開校式に参加しました。実際に地雷やクラス
ター爆弾のある所へ行くと、「自分に出来ること
があれば何かしたい」と、活動への思いが一層

強くなります。現地に友達ができると、その友達
のために「がんばろう」とモチベーションも高く
なります。

Q 柴田さんは今、国際関係学部で
学ばれていますが、活動をする中で
どのように影響を受けていますか？
また今後の目標について教えてください。

立命館大学に入ってから、周りの友達の前向
きな行動力にとっても影響を受けました。私が地
雷やクラスター爆弾廃絶の活動をしていること
を知ると、助けてくれたり、励まし、応援してく
れる友人がたくさん出てきました。みんなに刺
激され、最近では地雷やクラスター爆弾のみな
らず、貧困や女性への問題にも関心が高まって
います。実際に貧困の現状を見ようと、フィリ
ピンに行ったりもしました。

地雷やクラスター爆弾への取り組みは一生続け
ていきたいと思います。そして、一人でも多く
の方にこの活動の意味を理解してもらい、一緒
に問題意識を持ってもらいたいと思います。一
人の一歩よりも百人の一步が世界を変えると思
うのです。



校友会・グループ	日 時	会 場	問い合わせ先	
大阪校友会年次大会	7/3(金) 18:30	スイスホテル南海大阪	大阪オフィス	06(6201)3610
高知県校友会総会	7/4(土) 17:30	城西館	三谷 修一	(職)088(844)9650
山口周南地区校友会総会	7/4(土) 18:00	ホテルサンルート徳山	小西ヨシ子	0833(41)0412
校友会八幡支部総会	7/5(日) 11:00	松花堂資料館会議室	岡島 完治	075(983)3063
神奈川県校友会総会	7/11(土) 14:00	崎陽軒本店	長谷川貞栄	045(933)4662
岐阜県校友会総会	7/11(土) 16:30	岐阜都ホテル	房野麻紀子	(職)0584(73)1763
香川県校友会総会	7/11(土) 16:00	喜代美山荘 花樹海	穴吹 学	087(862)3565
岩手県校友会総会	7/12(日) 15:00	ホテル東日本盛岡	酒井 博忠	019(654)3893
滋賀県校友会総会	7/12(日) 11:00	ボストンプラザ草津	高津 知仁	(職)077(521)2413
清和会総会	7/18(土) 16:00	ウェスティン都ホテル京都	立命館中・高事務室	075(645)1051
秋田県校友会総会	7/20(月・祝) 14:30	ホテルメトロポリタン秋田	兜森 勲夫	018(834)6871
青森県校友会総会	7/25(土) 15:00	ウェディングプラザアラスカ	船水 重利	017(722)2926
宮城県校友会総会	7/25(土) 17:00	勝山館	柏原 晋	022(286)9928
徳島県校友会総会	7/25(土) 17:30	阿波観光ホテル	宮崎 房子	088(645)0897
愛媛県校友会総会	7/25(土) 17:00	松山全日空ホテル	石田 二郎	089(925)2547
岡山県校友会総会	7/26(日) 未定	アークホテル岡山	守屋 博司	(職)086(232)0945
法学部同窓会総会	8/1(土) 13:30	リーガロイヤルホテル京都	法学部事務室	075(465)8175
第50回熊本県校友会総会・記念講演会	8/29(土) 16:00	熊本全日空ホテルニュースカイ	飯田 俊之	(職)096(322)2566
オール立命館校友大会2009	9/27(日) 11:00	名古屋国際会議場	校友会事務局	075(813)8216
静岡県校友会総会	9/27(日) 15:15	名古屋国際会議場4号館	佐藤 友清	(職)054(245)2065
愛知県校友会総会	9/27(日) 14:15	名古屋国際会議場4号館	加藤 智大	(職)052(937)1250(FAXのみ)
Rちば校友の集い	10/3(土) 13:00	船橋グランドホテル	山本 良夫	047(422)3270
第60回福岡県校友会総会	10/17(土) 17:00	ソラリア西鉄ホテル	清家 邦敏	(職)092(472)2621
埼玉県校友会総会	10/18(日) 15:00	ラフレさいたま	常田 幸正	049(224)6535
北九州校友会総会	10/24(土) 18:00	ステーションホテル小倉	初村 雅敬	093(882)9240
佐賀県校友会総会	10/31(土) 未定	ホテルニューオータニ佐賀	伊香賀 俊介	0952(53)4243
広島県東部校友会総会	11/14(土) 16:00	福山ニューキャッスルホテル	岩村 寿夫	084(923)4214
鹿児島県校友会「校友の集い」	11/14(土) 14:00	鹿児島サンロイヤルホテル	西元 泰光	(職)099(253)1211
兵庫県校友会総会	11/21(土) 14:00	湊川神社楠公会館	中野 友廣	080(5713)6372
石川県校友会総会	12/5(土) 未定	ANAクラウンプラザホテル金沢	木場 密雄	(職)076(238)4131

校友消息（判明分）		
叙勲 2009年春分 □ 旭日小綾章 三木静夫氏（'61経済） 元枚方市議 濱田富雄氏（推薦校友） 元日本税理士会連合会常務理事 □ 瑞宝小綾章 堂本嘉巳氏（'60文） 元尼崎市消防正監 岡本吉晃氏（'61法） 元大阪市消防司監 堀江正俊氏（'63法） 元滋賀県立大事務局長 □ 旭日双光章 堀八朗氏（'55経済） 元十津川村議 □ 瑞宝双光章 高垣慶嗣氏（'56法） 保護司 吉田博次氏（'56法） 元大阪医科学部付属病院事務部長	三増雅一氏（'58理工） 元公立中学校長 富山義夫氏（'60法） 元愛媛県今治地方局長 正木明氏（'60理工） 元富山地方気象台長 掛田恭弘氏（'62法） 元日本郵政公社職員 島崎実氏（'63法） 元左京郵便局長 危険業務従事者叙勲 2009年春分 □ 瑞宝双光章 柴田晃氏（'57法） 警察功労 安田豊氏（'57法） 警察功労 伊勢猪一郎氏（'58経済） 警察功労 大狩隆則氏（'59法） 警察功労	天野武雄氏（'60法） 警察功労 大垣安夫氏（'60法） 警察功労 □ 瑞宝単光章 高橋清志氏（'57法） 警察功労 古川正氏（'57法） 警察功労 棚野昭雄氏（'58法） 警察功労 辻吉次郎氏（'59法） 警察功労 西羅嘉次氏（'59法） 警察功労 褒章 2009年春分 □ 紫綬褒章 村上正紀氏 立命館副総長 □ 黄綬褒章 藤井正氏（'70理工） 藤井組社長

BOOKS
校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただいております。 ◆ 鳥巢修氏 （'69経済）著 『 きーちみ しゃべっちみー 奄岐島の方言事例集一』 昭和堂＊1143円＋税 ◆ 北奥耕一郎氏 （'71法）写真 『 小町 』 アーテファクトリー＊953円＋税 ◆ 藤井哲也氏 （'01法）著 『 人員整理術 経営者に問う 誰を切り、誰を残すのか!』 春日出版＊1300円＋税 ◆ 小林由香氏 （'93文）著 『 塾・予備校版 講師入門 仕事の基本マスターブック 』 日本教育システム開発協会＊1400円＋税 『 塾・予備校版 教室長入門 教室マネジメントブック 』 日本教育システム開発協会＊1600円＋税 ◆ 一井昭氏 （'68院経済）著 『 ポリティカル・エコノミー――「資本論」から現代へー 』 桜井書店＊2400円＋税



新型インフルエンザの感染者は、世界で1万人を超えた。

日本では、渡航歴のない高校生の国内初感染が明らかとなった5月16日以降、兵庫県や大阪府を中心に感染者が急激に増加し、発生地域では休校が相次ぎ、母校も例外ではなかった。企業でも、感染防止対策だけでなく、未曾有の経済不況が続く中で、各種イベントや商談の中止、旅行のキャンセルなどの打撃を受けることとなり、その影響は計り知れないと思う。私の勤務先でも、就職希望者向けセミナーを急遽取りやめ、パネルディスカッションを録画してホームページに掲載したり、コールセンターに職員が動員されたりと、あわただしい日々が続いた。

私は大学卒業から20年以上経った今も、同級生10人程度と年に1、2回、昼食をともにし、互いの近況を報告し合っている。去る5月23日も高槻市内で「同級会」を計画していたが、休日の緊急対応に備えるために自宅待機がかかってしまい、残念ながら今回は参加できなかった。

ようやく落ち着いてきたが、冬季に再流行し、被害が拡大するようないことがないことを心から祈りたい。

この4月より、新たに校友・父母課に着任させていただきました。校友の皆様には、昨年度まで勤務していた東京オフィス時代も含めて大変お世話になっており、あらためて、このような形でお付き合いさせていただくことを非常に喜んでおります。

また、昨年度より本格的に展開させていただいているリコネクトプロジェクトの取り組みの中で、次世代の校友会活動の主軸になっていただけるであろう方々との接点も非常に楽しく、啓発される毎日であります。

まだまだ分からないことばかりではありますが、諸先輩の方々が90年の長きにわたり蓄積されてきた校友会活動を継承、発展させ、そして先輩の方々のお話をよくよく勉強させていただきながら、より一層、校友の皆さんのお役に立つことができますよう、がんばりたいと思います。ご指導の程、宜しく願い申し上げます。

各都道府県校友会等で校友の皆様にお会いできますことを、心より楽しみにしています。

編集室から

大学時代、いつも一緒にいた友達が今年、一児の母になった。自分の時間がたくさんあった当時は自由そのもの。みんなで集まってははしゃぎ、朝までしゃべり続けたことも多々あった。

その中の1人だった友達が、今やすっかり母親の顔。どこか危なっかしさがあったのに、それも全く感じない。守るべきものがあるから強くなれる、と何気無い会話の中で出た彼女の一言は、ありふれた言葉のようで、テレビや本を通して聞くよりもずっと重く、母の強さとはこういうものかと改めて感動させられた。

それでも、みんなで集まれば時間が逆戻りしたかのように変わらない空気が流れる。誰かの会話をきっかけにどこまでも話は発展。「先生どうしてるのかな」「そういえばあの時」…。最後には「何でこんな話になったっけ」と思わず誰かが突っ込むほど。でもそれが本当に楽しい。「りつめい」もこんな風に大学時代を思い出し、心あったまるきっかけとなりますように。

(pow)

特集「地域の笑顔を生む立命館スピリッツ」の取材では、校友や学生の生き生きとした素顔に出合うことができました。それぞれの方が立命館における経験や学びを、自身のフィールドで活かしていたのが印象的です。懸命で前向きな気持ち伝わりました。

1952年に創刊された校友会報誌は57年目に突入しています。発刊を記念した喜びの声や抱負が綴られた創刊号をひも解いてみると、編集者の熱い思いを感じるとともに、母校の情報を皆様にお届けすることの意味の大きさを実感しました。

その重みある会報の編集メンバーに今号から加わりました。よろしく願います。初刊となった「237号」が完成し、安堵の気持ちでいっぱいです。一方で大きな喜びも感じています。情報社会の時代にあってツールは多様にありますが、冊子だからこそ伝えられる魅力を追求し、創刊当時のように喜びにつながり、そして元気な「立命館」を伝えられる誌面づくりに励みたいです。

(山口)

名簿作成業者によるDMにつきまして

最近「人事新報社」という会社から「立命館大学△△学部同窓名鑑」の案内はがき（往復はがき）が送られております。このはがきでは「調査カード」と記された枠内に最新の個人情報を入力する欄と、同窓名鑑の申込の有無を記す欄が設けられ、往復はがきで返信を依頼する内容となっております。本件に関しましては下記の通りです。

- 「人事新報社」は立命館大学、および立命館大学校友会とは全く関係ありません。
- 立命館大学校友会では他の業者に委託して名簿管理することはありません。また、名簿発行の予定もありません。

